

Veritas NetBackup™ リリースノート

リリース 9.0.0.1

マニュアルバージョン 1

VERITAS™

Veritas NetBackup™ リリースノート

最終更新日: 2021-04-25

法的通知と登録商標

Copyright © 2021 Veritas Technologies LLC. All rights reserved.

Veritas、Veritas ロゴ、NetBackup は、Veritas Technologies LLC または関連会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。その他の会社名、製品名は各社の登録商標または商標です。

この製品には、Veritas 社がサードパーティへの帰属を示す必要があるサードパーティ製ソフトウェア（「サードパーティ製プログラム」）が含まれる場合があります。サードパーティプログラムの一部は、オープンソースまたはフリーソフトウェアライセンスで提供されます。本ソフトウェアに含まれる本使用許諾契約は、オープンソースまたはフリーソフトウェアライセンスでお客様が有する権利または義務を変更しないものとします。このVeritas製品に付属するサードパーティの法的通知文書は次の場所から入手できます。

<https://www.veritas.com/about/legal/license-agreements>

本書に記載されている製品は、その使用、コピー、頒布、逆コンパイルおよびリバースエンジニアリングを制限するライセンスに基づいて頒布されます。Veritas Technologies LLC からの書面による許可なく本書を複製することはできません。

本書は、現状のまま提供されるものであり、その商品性、特定目的への適合性、または不侵害の暗黙的な保証を含む、明示的あるいは暗黙的な条件、表明、および保証はすべて免責されるものとします。ただし、これらの免責が法的に無効であるとされる場合を除きます。Veritas Technologies LLC およびその関連会社は、本書の提供、パフォーマンスまたは使用に関連する付随的または間接的損害に対して、一切責任を負わないものとします。本書に記載の情報は、予告なく変更される場合があります。

ライセンスソフトウェアおよび文書は、FAR 12.212 に定義される商用コンピュータソフトウェアと見なされ、Veritasがオンプレミスまたはホスト型サービスとして提供するかを問わず、必要に応じて FAR 52.227-19「商用コンピュータソフトウェア - 制限される権利 (Commercial Computer Software - Restricted Rights)」、DFARS 227.7202「商用コンピュータソフトウェアおよび商用コンピュータソフトウェア文書 (Commercial Computer Software and Commercial Computer Software Documentation)」、およびそれらの後継の規制に定める制限される権利の対象となります。米国政府によるライセンス対象ソフトウェアおよび資料の使用、修正、複製のリリース、実演、表示または開示は、本使用許諾契約の条項に従ってのみ行われるものとします。

Veritas Technologies LLC
2625 Augustine Drive
Santa Clara, CA 95054

<http://www.veritas.com>

テクニカルサポート

テクニカルサポートはグローバルにサポートセンターを管理しています。すべてのサポートサービスは、サポート契約と現在のエンタープライズテクニカルサポートポリシーに応じて提供されます。サ

ポート内容およびテクニカルサポートの利用方法に関する情報については、次の **Web** サイトにアクセスしてください。

<https://www.veritas.com/support>

次の URL で **Veritas Account** の情報を管理できます。

<https://my.veritas.com>

現在のサポート契約についてご不明な点がある場合は、次に示すお住まいの地域のサポート契約管理チームに電子メールでお問い合わせください。

世界共通 (日本を除く)

CustomerCare@veritas.com

日本

CustomerCare_Japan@veritas.com

マニュアル

マニュアルの最新バージョンがあることを確認してください。各マニュアルには、2 ページ目に最終更新日が記載されています。最新のマニュアルは、**Veritas** の **Web** サイトで入手できます。

<https://sort.veritas.com/documents>

マニュアルに対するご意見

お客様のご意見は弊社の財産です。改善点のご指摘やマニュアルの誤謬脱漏などの報告をお願いします。その際には、マニュアルのタイトル、バージョン、章タイトル、セクションタイトルも合わせてご報告ください。ご意見は次のアドレスに送信してください。

NB.docs@veritas.com

次の **Veritas** コミュニティサイトでマニュアルの情報を参照したり、質問したりすることもできます。

<http://www.veritas.com/community/>

Veritas Services and Operations Readiness Tools (SORT)

Veritas SORT (Service and Operations Readiness Tools) は、特定の時間がかかる管理タスクを自動化および簡素化するための情報とツールを提供する **Web** サイトです。製品によって異なりますが、**SORT** はインストールとアップグレードの準備、データセンターにおけるリスクの識別、および運用効率の向上を支援します。**SORT** がお客様の製品に提供できるサービスとツールについては、次のデータシートを参照してください。

https://sort.veritas.com/data/support/SORT_Data_Sheet.pdf

目次

第 1 章	NetBackup 9.0.0.1 について	8
	NetBackup 9.0.0.1 のリリースについて	8
	NetBackup の最新情報について	9
	NetBackup サードパーティの法的通知について	9
第 2 章	新機能、拡張機能および変更	10
	NetBackup の新しい拡張と変更について	10
	NetBackup 9.0.0.1 の新機能、変更点、拡張機能	10
	OpenStack 作業負荷用の機能強化	11
	NetBackup による vCloud Director 9.0、9.1、9.5 のサポートが EOL に到達	12
	NetBackup 9.0.0.1 のインストール後またはこのバージョンへのアップ グレード後すぐにマスターサーバー上のクラウド構成ファイルを更 新する	12
第 3 章	操作上の注意事項	14
	NetBackup 9.0.0.1 の操作上の注意事項について	14
	NetBackup のインストールとアップグレードの操作上の注意事項	15
	CA の移行を開始した後、接続エラーが発生することがある	15
	Windows で NetBackup 9.0.0.1 のアップグレードが失敗した場合に 以前のログフォルダ構造に戻す	15
	ネイティブインストールの要件	16
	NetBackup サーバーで RFC 1123 と RFC 952 に準拠したホスト名 を使用する必要がある	16
	インストール DVD を挿入すると表示されるメニューからインストールし ないでください	16
	HP-UX Itanium の vPars SRP のコンテナのサポートについて	17
	NetBackup の管理と一般的な操作上の注意事項	17
	NetBackup サービスを起動すると Solaris プラットフォームで警告が 生成されることがある	17
	NetBackup Messaging Broker (mqbroker) が実行されている場合 でも、サービスのリストに表示されない	18
	バックアップが状態コード 2074「ディスクボリュームが停止しています」 で失敗する	18

NAS-Data-Protection ポリシーのルート (「/」) フォルダのリストアが失敗する	19
BigData ポリシーを使用する作業負荷のバックアップが失敗する	19
BigData ポリシーを使用する作業負荷で子バックアップジョブがキューに投入された状態になることがある	20
非 WORM 対応のストレージから NetBackup がイメージを期限切れにしようとする、ジョブの詳細にエラーが表示される	20
NetBackup CA の移行またはアップグレードの開始時における NetBackup Web サーバー証明書の更新の失敗	20
リソースグループ名にピリオド (.) が含まれると Microsoft Azure のバックアップが失敗する	21
デバイスツリーに表示されている古いデバイス	21
一時デバイスがファイルシステム資産として一覧表示される	22
NetBackup 管理インターフェースの操作上の注意事項	22
NetBackup Web UI でのセキュリティイベントリストの検索の制限事項	22
NetBackup 9.0.0.1 がサポートするアクセス制御方式	23
X フォワーディングを使った NetBackup 管理コンソールの起動が特定の Linux プラットフォーム上で失敗することがある	23
NetBackup 管理コンソールの X フォワーディングで断続的に問題が発生する	23
Solaris 10 Update 2 以降がインストールされている Solaris SPARC 64 ビットシステムで簡体中国語 UTF-8 ロケールを使用すると、NetBackup 管理コンソールでエラーが発生する	23
NetBackup Bare Metal Restore の操作上の注意事項	24
BMR のリストアでフォーマットとボリュームの作成手順に長時間かかることがある	24
NetBackup と Veritas CloudPoint に関する操作上の注意事項	24
スナップショットジョブが例外のために失敗する	24
スナップショットを削除しても NetBackup Web UI に表示される	25
ターゲットパスを削除して再作成すると個別リストアが失敗する	25
Gov クラウドまたは中国地域でパブリッククラウドがサポートされない	25
AWS マーケットプレース AMI から作成されたインスタンスでインデックス付けがサポートされない	25
一貫したホストスナップショットが失敗する場合がある	26
[認証方式 (Authentication Method)] フィールドに空白が表示された IAM ロールを持つ AWS プラグインの構成	26
MongoDB のスナップショットの作成ジョブがフリーズする場合がある	26
ジョブの実行中にクラウドプラグインを更新するとジョブが失敗する	27

ユーザーとパスワードの両方が更新されると権限拒否エラーが発生する	27
Google Cloud Platform の異なるソースおよびターゲットゾーンがサポートされない	27
壊れたファイルシステムが検出される	28
NetBackup Deduplication に関する注意事項	28
マルチドメイン環境の WORM ストレージサーバーで「ストレージサーバーが停止しています... (Storage server is down ...)」エラーによりバックアップジョブが失敗する	28
Solaris 10 で MSDP を使用するメディアサーバーを NetBackup 9.0.0.1 にアップグレードすると、バックアップジョブが失敗する	29
Solaris 10 で MSDP ストレージサーバーの構成に失敗する	29
NetBackup Deduplication Engine のクレデンシャルでアンパサンド文字 (&) が許可されない	30
NetBackup for NDMP の操作上の注意事項	30
ファイルパスの親ディレクトリが NDMP 増分イメージに存在しないことがある	30
NetBackup for OpenStack の操作上の注意事項	30
増分バックアップのインスタンスボリュームをマウントできない	30
NetBackup for OpenStack VM が 3 ノードクラスタの場合、NetBackup マスターサーバーがトークンを再発行しない	31
スナップショットがあるポリシーを削除すると、エラーメッセージとともに成功メッセージが表示される	31
NBCA を使用して NetBackup マスターサーバーに接続できない	31
リストア後に除外された Ceph ボリュームをマウントまたはフォーマットできない	32
リストアされた VM に空のメタデータ config_drive が接続される	32
新しい NetBackup for OpenStack VM をクラスタに追加するとき、NBOSVM の再構成に失敗する	32
NetBackup for OpenStack クラスタで新しいノードを取得した後にデータベースが同期されない	32
ブートディスク上のデータが除外されているにもかかわらずバックアップされる	33
再初期化とインポートの後、OpenStack 証明書が見つからない	33
CLI でのインポートによってスケジューラの信頼の値が無効に変更される	33
NetBackup for OpenStack Appliance を再初期化した後、ノードの詳細を取得できない	33
多数のポリシージョブが同時に実行されるとスナップショットが「object is not subscribable」で失敗する	33

	SSL 対応 Keystone URL に対して安全でない方法での操作が許可 されない	34
	NetBackup の国際化と日本語化の操作に関する注意事項	34
	データベースおよびアプリケーションエージェントでのローカライズ環 境のサポート	34
	特定の NetBackup ユーザー定義の文字列には非 US ASCII 文字 を含めないようにする	35
	NetBackup Snapshot Client の操作上の注意事項	36
	HPE 3PAR アレイのスナップショットのインポートが状態コード 4213 で失敗する	36
	指定した時点へのロールバック後のスナップショットの削除	36
	スナップショットからのインデックス操作でスナップショットの内容がカタ ログに正確に入力されない	36
	NetBackup 仮想化の操作上の注意事項	37
	NetBackup for VMware の操作上の注意事項	37
付録 A	NetBackup ユーザーの SORT について	39
	Veritas Services and Operations Readiness Tools について	39
	SORT の新規インストールのための推奨手順	40
	SORT のアップグレードのための推奨手順	45
付録 B	NetBackup のインストール要件	47
	NetBackup のインストール要件について	47
	NetBackup に必要なオペレーティングシステムパッチと更新	48
	NetBackup 9.0 のバイナリサイズ	51
	NetBackup 9.0.0.1 のバイナリサイズ	54
付録 C	NetBackup の互換性の要件	57
	NetBackup のバージョン間の互換性について	57
	NetBackup の互換性リストと情報について	58
	NetBackup の End-of-Life のお知らせについて	59
付録 D	他の NetBackup マニュアルおよび関連マニュアル	
	61
	NetBackup の関連マニュアルについて	61

NetBackup 9.0.0.1 について

この章では以下の項目について説明しています。

- [NetBackup 9.0.0.1 のリリースについて](#)
- [NetBackup の最新情報について](#)
- [NetBackup サードパーティの法的通知について](#)

NetBackup 9.0.0.1 のリリースについて

『NetBackup リリースノート』のドキュメントは NetBackup のバージョンのリリースに関する情報のスナップショットとして機能します。古い情報およびリリースに適用しない情報はリリースノートから削除されるか、または NetBackup のマニュアルセットの別の所に移行されます。

p.10 の「[NetBackup の新しい拡張と変更について](#)」を参照してください。

EEB およびリリース内容について

NetBackup 9.0.0.1 には、以前のバージョンの NetBackup で顧客に影響を与えていた既知の問題の多くに対する修正が組み込まれています。これらの修正の一部は、お客様固有の問題に関連します。このリリースに組み込まれた顧客関連の修正のいくつかは、Emergency Engineering Binary (EEB) として利用可能になりました。

NetBackup 9.0.0.1 で修正された既知の問題を示す EEB および Etrack のリストは、Veritas Operations Readiness Tools (SORT) Web サイトと、『』にあります。

p.39 の「[Veritas Services and Operations Readiness Tools について](#)」を参照してください。

NetBackup アプライアンスのリリースについて

NetBackup アプライアンスは、事前設定バージョンの NetBackup を含むソフトウェアパッケージを実行します。新しいアプライアンスソフトウェアリリースの開発時、NetBackup の最新バージョンがアプライアンスコードの構築基盤として使われます。たとえば、NetBackup Appliance 3.1 は NetBackup 8.1 を基盤としています。この開発モデルにより、NetBackup 内でリリースされたすべての適用可能機能、拡張機能、修正が確実にアプライアンスの最新リリースに含まれます。

NetBackup アプライアンスソフトウェアは、その構築基盤となる NetBackup リリースと同時に、またはそのすぐ後にリリースされます。NetBackup アプライアンスを利用する場合、実行する NetBackup アプライアンスバージョンの『NetBackup リリースノート』を確認する必要があります。

アプライアンス固有のマニュアルは次の場所から入手できます。

<http://www.veritas.com/docs/000002217>

NetBackup の最新情報について

NetBackup の最新情報や発表については、次の場所から利用可能な NetBackup の最新情報 Web サイトを参照してください。

<http://www.veritas.com/docs/000040237>

他の NetBackup 固有の情報は、次の場所から提供されています。

https://www.veritas.com/support/en_US/15143.html

NetBackup サードパーティの法的通知について

NetBackup には、ベリタスによる所有者の掲示が義務付けられているサードパーティソフトウェアが含まれている場合があります。サードパーティプログラムの一部は、オープンソースまたはフリーソフトウェアライセンスで提供されます。NetBackup に含まれる本使用許諾契約は、オープンソースまたはフリーソフトウェアライセンスでお客様が有する権利または義務を変更しないものとします。

これらのサードパーティプログラムの所有権通知とライセンスは、次の Web サイトで入手できる『NetBackup サードパーティの法的通知』文書に記載されています。

<https://www.veritas.com/about/legal/license-agreements>

新機能、拡張機能および変更

この章では以下の項目について説明しています。

- [NetBackup の新しい拡張と変更について](#)
- [NetBackup 9.0.0.1 の新機能、変更点、拡張機能](#)

NetBackup の新しい拡張と変更について

NetBackup リリースには、新機能および製品修正に加えて顧客対応の新しい拡張と変更が含まれることがよくあります。よくある拡張の例には、新しいプラットフォームのサポート、アップグレードされた内部ソフトウェアコンポーネント、インターフェースの変更、拡張された機能のサポートなどがあります。新しい拡張と変更のほとんどは、『[NetBackup リリースノート](#)』および [NetBackup](#) の互換性リストに文書化されます。

メモ: 『[NetBackup リリースノート](#)』には、特定の [NetBackup](#) バージョンレベルでそのリリースのタイミングで開始される新しいプラットフォームサポートのみがリストされます。ただし、Veritas によって、以前のバージョンの [NetBackup](#) へのプラットフォームサポートのバックデートが定期的に行われます。最新のプラットフォームサポートのリストについては、[NetBackup 互換性リスト](#) を参照してください。

p.8 の「[NetBackup 9.0.0.1 のリリースについて](#)」を参照してください。

p.58 の「[NetBackup の互換性リストと情報について](#)」を参照してください。

NetBackup 9.0.0.1 の新機能、変更点、拡張機能

NetBackup 9.0.0.1 の新機能、変更点、および拡張機能は、以下のカテゴリ別にグループ化されます。トピックに関する詳細情報をお読みになるにはリンクを選択します。

メモ: NetBackup 9.0 の機能、変更点、拡張機能については、次のドキュメントを参照してください。

[NetBackup 9.0 リリースノート](#)

新機能

- 「[OpenStack 作業負荷用の機能強化](#)」
- 「[NetBackup による vCloud Director 9.0、9.1、9.5 のサポートが EOL に到達](#)」

安全な通信の機能、変更点、および拡張機能

- **メモ:** NetBackup 9.0.0.1 をインストールまたは 8.1 より前のリリースからアップグレードする前に、『[NetBackup 安全な通信 \(最初にお読みください\)](#)』を必ずお読みになり、内容をご確認ください。NetBackup 8.1 には、NetBackup コンポーネントの安全な通信を向上させる多くの拡張機能が含まれています。『[NetBackup 安全な通信 \(最初にお読みください\)](#)』というドキュメントでは、次の拡張機能の特徴と利点を説明しています。

[NetBackup 安全な通信 \(最初にお読みください\)](#)

クラウド関連の変更点と拡張機能

- 「[NetBackup 9.0.0.1 のインストール後またはこのバージョンへのアップグレード後すぐにマスターサーバー上のクラウド構成ファイルを更新する](#)」

OpenStack 作業負荷用の機能強化

NetBackup 9.0.0.1 に OpenStack 環境を保護するための重要な機能が追加されました。利用可能になった主な新機能は次のとおりです。

- 増分バックアップ
- 役割ベースのアクセス制御と Keystone の統合
- システム容量を保護するためのクォータの統合
- ユニバーサル共有、NFS、S3 へのバックアップ
- NetBackup WebUI および Horizon UI との統合
- MySQL、SQL Server、Oracle、MariaDB、Sybase、SharePoint のアプリケーションの整合性確保
- テナントレベルのセルフサービス保護
- リソースのスロットル
- 個々のボリュームのバックアップまたはリカバリ

- OpenStack クラウド全体のワンクリックリストア、新しいクラウドへの DR の移行、インスタントマウント、単一ファイルのリストア
- テナントの使用状況、消費量に応じたチャージバック

詳しくは、『[NetBackup for OpenStack 9.0.0.1 管理者ガイド](#)』を参照してください。

NetBackup による vCloud Director 9.0、9.1、9.5 のサポートが EOL に到達

VMware Cloud Director バージョン 9.0、9.1、9.5 は、NetBackup の次回のリリースからサポートされなくなります。

End-of-Life (EOL) 通知について詳しくは、以下を参照してください。

p.59 の「[NetBackup の End-of-Life のお知らせについて](#)」を参照してください。

NetBackup 9.0.0.1 のインストール後またはこのバージョンへのアップグレード後すぐにマスターサーバー上のクラウド構成ファイルを更新する

NetBackup 環境でクラウドストレージを使用する場合には、NetBackup 9.0.0.1 をインストールするか、そのバージョンにアップグレードした直後に、NetBackup マスターサーバー上のクラウド構成ファイルを更新する必要があります。NetBackup 9.0.0.1 へのアップグレード後にクラウドプロバイダまたは関連の拡張機能がクラウド構成ファイルから利用できない場合、関連する操作は失敗します。

Veritas は次回のリリースを待たずに、クラウド構成ファイルに新しいクラウドサポートを継続的に追加します。バージョン 2.7.2 以降で、クラウド構成パッケージにクラウドストレージプロバイダが追加された場合にのみ、クラウド構成ファイルの更新が必要です。バージョン 2.8.1 以降には、次のクラウドサポートが追加されましたが、NetBackup 9.0.0.1 の最終ビルドには含まれていません。

- Amazon (S3) - AP 大阪リージョン
- Dell EMC Isilon PowerScale (S3)
- Google (S3) - US-West3 (ソルトレークシティ) リージョン
- Google (S3) - US-West4 (ラスベガス) リージョン
- IBM (S3) - AP オーストラリアリージョン
- IBM (S3) - AP 東京リージョン
- Seagate - Lyve Cloud (S3)
- Tencent Cloud - クラウドオブジェクトストレージ (COS) (S3)
- XSKY エンタープライズオブジェクトストレージ (S3)

最新のクラウド構成パッケージについては、次のテクニカルノートを参照してください。

https://www.veritas.com/content/support/en_US/downloads/update.UPD971796

クラウドストレージ構成ファイルの追加方法については、次のテクニカルノートを参照してください。

<http://www.veritas.com/docs/100039095>

操作上の注意事項

この章では以下の項目について説明しています。

- [NetBackup 9.0.0.1 の操作上の注意事項について](#)
- [NetBackup のインストールとアップグレードの操作上の注意事項](#)
- [NetBackup の管理と一般的な操作上の注意事項](#)
- [NetBackup 管理インターフェースの操作上の注意事項](#)
- [NetBackup Bare Metal Restore の操作上の注意事項](#)
- [NetBackup と Veritas CloudPoint に関する操作上の注意事項](#)
- [NetBackup Deduplication に関する注意事項](#)
- [NetBackup for NDMP の操作上の注意事項](#)
- [NetBackup for OpenStack の操作上の注意事項](#)
- [NetBackup の国際化と日本語化の操作に関する注意事項](#)
- [NetBackup Snapshot Client の操作上の注意事項](#)
- [NetBackup 仮想化の操作上の注意事項](#)

NetBackup 9.0.0.1 の操作上の注意事項について

NetBackup の操作上の注意事項は、NetBackup のマニュアルセットまたはベリタスのサポート Web サイトのどこにも文書化されない可能性のある NetBackup のさまざまな操作に関する重要な点について説明したものです。操作上の注意事項は、NetBackup の各バージョンに対応する形で『NetBackup リリースノート』に記載されます。通常、操作上の注意事項には、既知の問題、互換性の問題、およびインストールとアップグレードに関する追加情報が含まれます。

操作上の注意事項は、NetBackup のバージョンがリリースされた後に追加または更新されることがよくあります。この結果、オンラインバージョンの『NetBackup リリースノート』またはその他の NetBackup マニュアルは、リリース後の更新となる場合があります。NetBackup の指定のリリースに関する最新版のマニュアルセットには、ベリタスのサポート Web サイトの次の場所でアクセスできます。

[NetBackup のリリースノート](#)、[管理者ガイド](#)、[インストールガイド](#)、[トラブルシューティングガイド](#)、[スタートガイド](#)、[ソリューションガイド](#)

NetBackup のインストールとアップグレードの操作上の注意事項

NetBackup は、さまざまな方法を使って異機種混合環境でインストールしたり、アップグレードしたりすることができます。NetBackup は、同一環境で混在しているさまざまなリリースレベルの NetBackup サーバーとクライアントとも互換性があります。このトピックでは、NetBackup 9.0.0.1 のインストール、アップグレード、ソフトウェアパッケージに関連する操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

CA の移行を開始した後、接続エラーが発生することがある

NetBackup は、キー強度が 2048 ビット、4096 ビット、8192 ビット、および 16384 ビットの認証局をサポートするようになりました。NetBackup 9.0.0.1 をインストールまたはアップグレードした後、デフォルトでは、キー強度が 2048 ビットの新しいルート CA が配備されます。

NetBackup CA の移行中に NetBackup Web UI に接続する場合は、正常な通信のために Web UI に再度サインインする必要があります。

Windows で NetBackup 9.0.0.1 のアップグレードが失敗した場合に以前のログフォルダ構造に戻す

root 以外または管理者以外で起動したプロセスのログについて、レガシーログフォルダ構造が変更されました。新しいフォルダ構造は、プロセスログディレクトリ名の下に作成されます。詳しくは、『[Veritas NetBackup ログリファレンスガイド](#)』のレガシーログのファイル名形式に関するセクションを参照してください。

Windows の場合、NetBackup 9.0.0.1 へのアップグレードが失敗してロールバックが発生した場合は、次のコマンドを実行して、以前のバージョンの NetBackup での作業を続行します。

```
mklogdir.bat -fixFolderPerm
```

詳しくは、『[Veritas NetBackup コマンドリファレンスガイド](#)』の mklogdir コマンドを参照してください。

ネイティブインストールの要件

NetBackup 8.2 で初期インストールが変更され、現在は応答ファイルが必要です。この変更は、ネイティブパッケージを使用して VM テンプレートを作成する、または製品を構成せずに NetBackup パッケージをインストールする必要があるユーザーに悪影響を及ぼす場合があります。Linux では、以前の動作を実現する方法の 1 つとして、RPM パッケージマネージャの `--noscripts` オプションを使用できます。VRTSnbpcck パッケージのインストール時にこのオプションを指定すると、構成の手順を回避できます。このオプションは、その他のパッケージをインストールする場合に指定する必要はありません。この場合でも応答ファイルは存在する必要がありますが、指定する必要がある値は、マシンのロール (クライアントまたはメディアサーバーのいずれか) のみです。次に例を示します。

```
echo "MACHINE_ROLE=CLIENT" > /tmp/NBInstallAnswer.conf
rpm -U --noscripts VRTSnbpcck.rpm
rpm -U VRTSspbx.rpm VRTSnbclt.rpm VRTSpddea.rpm
```

NetBackup サーバーで RFC 1123 と RFC 952 に準拠したホスト名を使用する必要がある

NetBackup 8.0 以降では、すべての NetBackup サーバー名に RFC 1123 (「Requirements for Internet Hosts - Application and Support」) と RFC 952 (「DOD Internet Host Table Specification」) の規格に準拠したホスト名を使用する必要があります。これらの規格には、ホスト名に使用できる文字と使用できない文字が規定されています。たとえば、ホスト名にアンダースコア文字 (`_`) は使用できません。

これらの規格とこの問題に関して詳しくは、次の資料を参照してください。

[RFC 952](#)

[RFC 1123](#)

https://www.veritas.com/support/ja_JP/article.000125019

インストール DVD を挿入すると表示されるメニューからインストールしないでください

インストール DVD をディスクドライブに挿入すると、オペレーティングシステムのユーザーインターフェースウィンドウ (Solaris の [ファイルマネージャ] など) が開く場合があります。このウィンドウを使用して NetBackup 製品をインストールしないことを Veritas が推奨します。このウィンドウを使用すると、予測できない結果が生じる可能性があります。『NetBackup インストールガイド』に記載されているインストール手順に必ず従ってください。

HP-UX ItaniumのvPars SRPのコンテナのサポートについて

Hewlett Packard Enterprise (HPE) は、HP-UX Virtual Partitions (vPars) 対応サーバーに Secure Resource Partitions (SRP) という新しいタイプのコンテナを導入しました。SRP で導入されたセキュリティ変更の一部として、swinstall と swremove などのネイティブ HP-UX インストールツールの SRP 環境内での実行は無効です。swinstall と swremove ツールは vPars を実行しているグローバルホストからのみ呼び出すことが可能で、SRP コンテナにネイティブパッケージをプッシュインストールします。

HPE Itanium SRP コンテナ (プライベートファイルシステム、共有ファイルシステムまたは作業負荷) へのインストールを試行すると、NetBackup のインストールが中止されます。グローバルコンテナにインストールすると、グローバルビューにのみインストールするためにパラメータがすべての swremove と swinstall コマンドに追加されます。

NetBackup の管理と一般的な操作上の注意事項

NetBackup は、さまざまなプラットフォームに対して、完全かつ柔軟なデータ保護ソリューションを提供します。対象となるプラットフォームには、Windows、UNIX、Linux システムなどが含まれます。データ保護機能の標準セットに加えて、NetBackup は他の複数のライセンス付与されたコンポーネントとライセンス付与されていないコンポーネントを活用して、さまざまな異なるシステムや環境をより強力に保護できます。このトピックでは、NetBackup 9.0.0.1 の管理に関連する一般的な操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

NetBackup サービスを起動すると Solaris プラットフォームで警告が生成されることがある

Solaris システムの NetBackup 9.0 では、bp.start_all コマンドで NetBackup サービスを起動すると、NetBackup Messaging Broker サービスがすでに実行中の状態の場合、次の警告が表示されます。

```
Starting nbmqbroker...
Starting NetBackup Messaging Queue Broker could take a couple of
minutes
./usr/opensv/mqbroker/bin/nbmqbroker: test: unknown operator ==
```

回避方法:

この警告は無視してかまいません。

NetBackup Messaging Broker (mqbroker) が実行されている場合でも、サービスのリストに表示されない

Solaris システムの NetBackup 9.0.0.1 では、NetBackup 管理コンソールサービスのリストおよび `bpps` コマンドの出力に、NetBackup Messaging Broker (mqbroker) サービスが実行中の状態であっても表示されないことがあります。そのため、NetBackup Messaging Broker サービスが実行されていないと誤認する可能性があります。

この状況は、次の手順で確認できます。

1. 次のコマンドを使用して出力を調べます。

```
bpps | grep mqbroker output
```

`mqbroker` が一覧表示されない場合があります。

3. 次のコマンドを使用して出力を調べます。

```
ps -ef | grep usr | grep openv | grep mqbroker | grep beam.smp
```

NetBackup Messaging Broker サービスが実行中の状態である場合は、`mqbroker` が表示されます。

回避方法:

1. 次のコマンドを実行します。

```
/usr/openv/mqbroker/bin/nbmqroker stop
```

2. 数秒間待機してから、`/usr/openv/netbackup/bin/bp.start_all` の `bp.start_all` コマンドを実行します。

3. 次のコマンドを使用して出力を調べます。

```
ps -ef | grep usr | grep openv | grep mqbroker | grep beam.smp
```

4. 次のコマンドを実行します。

```
/usr/openv/netbackup/bin/bpps
```

NetBackup Messaging Broker サービスが一覧表示されます。

バックアップが状態コード 2074「ディスクボリュームが停止しています」で失敗する

いくつかのバックアップジョブが、状態コード 2074「ディスクボリュームが停止しています (Disk volume is down)」で失敗する場合があります。この問題は、OCSD (Open Cloud Storage Daemon) の再起動後にバックアップジョブが開始された場合に発生します。再起動後、OCSD のメモリ情報はクリーンになり、ストレージ設定構造の下に必要なデータがなくなります。その結果、クラウド LSU (またはディスクボリューム) の詳細を取得する呼び出しが失敗します。

回避方法:

メディアサーバーで次の手順を実行します。

1. すべての MSDP サービスを停止します。

```
<install_path>/pdde/pdconfigure/pdde stop
```
2. すべての MSDP サービスを開始します。

```
<install_path>/pdde/pdconfigure/pdde start
```
3. 次のコマンドを使用して、ディスクボリュームの状態を確認します。ディスクボリュームの状態は[有効 / 起動 (UP)]になっているはずですが。

```
<install_path>/netbackup/bin/admincmd/bpstsinfo -lsuinfo -stype  

PureDisk -lsuname <disk-volume-name>
```
4. 新しいバックアップジョブを開始します。

NAS-Data-Protection ポリシーのルート (「/」) フォルダのリストアが失敗する

NAS-Data-Protection ポリシーのスナップショットイメージからリストアするときに、リストアパターンとして「/」を選択すると、リストアはエラー 133 (無効な要求) で失敗します。

回避方法:

リストアに「/」フォルダを選択しないでください。代わりに、「/」ツリー構造を展開し、リストアするアイテムを個別に選択します。

BigData ポリシーを使用する作業負荷のバックアップが失敗する

BigData ポリシーを使用する作業負荷を保護するためのバックアップホストとして NetBackup クライアントが存在し、このバックアップホストが 2 つのマスターサーバー間で共有される場合、バックアップは失敗します。

バックアップ中に NetBackup クライアントは bp.conf ファイルをスキャンします。マスターサーバーが 2 番目の位置にある場合、バックアップが失敗し、次のエラーが表示されます。

```
(6654) Unable to retrieve the credentials for the server.
```

回避方法: bp.conf ファイルで、マスターサーバーのエントリがサーバー名の最初のエントリであることを確認します。

BigData ポリシーを使用する作業負荷で子バックアップジョブがキューに投入された状態になることがある

BigData ポリシーを使用する複数のバックアップホストがある NetBackup Appliance 環境では、メディアサーバーが無効な状態になると、子バックアップジョブのいずれかがキューに投入された状態になることがあります。このシナリオは、Hadoop、HBase、MongoDB の作業負荷に該当します。

回避方法:

NetBackup 管理コンソールの [メディアおよびデバイスの管理 (Media and Device Management)]、[デバイス (Devices)]、[メディアサーバー (Media servers)] メニューから、無効なメディアサーバーを右クリックし、状態を [無効 (Deactivated)] から [有効 (Activate)] に変更します。

非 WORM 対応のストレージから NetBackup がイメージを期限切れにしようとすると、ジョブの詳細にエラーが表示される

NetBackup は、通常、期限切れのバックアップの削除をカタログから試行し、その後ストレージ上で試行します。バックアップがカタログの有効期限を越えたストレージで WORM ロックされている場合、ストレージからデータを削除しようとすると、ジョブは部分的に成功した状態で完了します。ジョブは状態 (1) で完了し、ジョブの詳細にイメージごとのエラーコード 2060069 が報告されます。各クリーンアップサイクルでは、WORM ロックされたイメージの削除がストレージによって正常に許可されるまで、バックアップの削除が試行されます。

回避方法:

クリーンアップサイクルから WORM イメージを削除するには、必要に応じて次のいずれかの操作を実行します。

- 手動インポートを実行して、WORM イメージをカタログに再び取り込みます。
- `nbdelete -purge_deletion_list -backupid` コマンドを使用して、削除作業リストから WORM イメージバックアップ ID を削除します。このコマンドでは、これらのイメージはストレージから削除されないため、ストレージからイメージを手動で削除する必要があります。

NetBackup CA の移行またはアップグレードの開始時における NetBackup Web サーバー証明書の更新の失敗

NetBackup Web サービスのタイムアウトが原因で NetBackup CA の移行の開始が失敗した場合は、NetBackup Web サーバー証明書の更新が失敗します。

新しい CA を使用して Web サーバー証明書を更新するには

- 1 次の手順を使用して、nbatd サービスが正常に NetBackup CA を移行したかどうかを確認します。

- 移行の概略の状態を確認します。状態は「開始済み」である必要があります。
- `nbseccmd -nbcamigrate -summary` コマンドを実行して、CA の移行状態を確認します。
- 必要なキーサイズの新しいキーペアが、NetBackup Web サーバーのキーストアに存在する必要があります。次の場所のキーストアを確認します。

Windows の場合:

```
<INSTALL_PATH>/var/global/vxss/tomcatcreds/nbwebmvc/.VRTSat/profile/certstore/keystore
```

UNIX の場合:

```
<INSTALL_PATH>/var/global/vxss/tomcatcreds/nbwebmvc/.VRTSat/profile/certstore/keystore
```

- 2 nbatd サービスが NetBackup CA を正常に移行したことを確認した後、次のコマンドを実行して NetBackup Web サーバー証明書を更新します。

```
nbseccmd -nbcamigrate -syncMigrationDB
```

リソースグループ名にピリオド (.) が含まれると Microsoft Azure のバックアップが失敗する

VM またはディスクのスナップショットの場合、ディスク名または資産リソースグループ名にピリオドが含まれていると、バックアップジョブが失敗します。

回避方法:

- リソースグループ名にピリオドが含まれている場合は、ディスクをピリオドが含まれないリソースグループに移動します。
- ディスク名にピリオドが含まれている場合は、ディスクの名前を変更します。

デバイスツリーに表示されている古いデバイス

インデックス付けまたはリストアの処理中に、ボリューム内に存在する古いデバイスがクリーンアップされず、デバイスツリーに表示されることがあります。

回避方法:

- 1 デバイスをマウントしたファイルシステムをマウント解除します。(必要な場合には `force unmount` を使用)
- 2 いずれかのパーティションが LVM に属している場合は、`vgreduce` コマンドと `pvremove` コマンドを使用して、ディスクからボリュームグループを削除します。

3. `blockdev -flushbufs` コマンドを実行して、そのデバイスへの未解決の参照を削除します。
4. デバイスツリーからデバイス参照を削除します。たとえば、ディスク全体またはパーティションディスクの `/dev/xvdf`、`/dev/disk/by-path`、`by-id`、`by-label`、`by-partuuid`、および `by-uuid` など
5. 次のコマンドを使用して、`sysfs` からデバイスを削除します。
6. `echo 1 > /sys/block/device-name/device/delete`
この場合、デバイス名は `xvdf` の場合があります。
7. この問題を解決するには、ホストを再ブートします。

一時デバイスがファイルシステム資産として一覧表示される

検出プロセスとリストア処理が同時に実行されている場合、リストア処理の間に、一時デバイスが検出され、ファイルシステム資産として表示されることがあります。リストア処理が完了すると、一時デバイスはその後の検出時にファイルシステム資産として表示されなくなります。

NetBackup 管理インターフェースの操作上の注意事項

NetBackup 管理者には、NetBackup の管理に使用できる複数のインターフェースの選択肢があります。すべてのインターフェースには同様の機能があります。このトピックでは、NetBackup 9.0.0.1 のこれらのインターフェースに関する操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

個々の NetBackup 管理インターフェースの詳細については、『NetBackup 管理者ガイド Vol. 1』を参照してください。インターフェースをインストールする方法については、『NetBackup インストールガイド』を参照してください。管理コンソールとプラットフォームの互換性については、Veritas のサポート Web サイトにある各種の NetBackup 互換性リストを参照してください。

p.58 の「[NetBackup の互換性リストと情報について](#)」を参照してください。

NetBackup Web UI でのセキュリティイベントリストの検索の制限事項

次の NetBackup Web UI 機能では、検索機能は[ユーザー名 (User name)]フィールドと[ドメイン名 (Domain name)]フィールドに対してのみ利用可能です。

- [セキュリティ (Security)]>[セキュリティイベント (Security Events)]>[アクセス履歴 (Access History)]
- [セキュリティ (Security)]>[セキュリティイベント (Security Events)]>[監査イベント (Audit Events)]

検索機能は、これらの表のリストの[説明 (Description)]、[理由 (Reason)]、その他の列では利用できません。フィルタを使用して、特定の監査カテゴリのイベント (ログイン、ジョブ、ポリシーなど) を表示できます。

NetBackup 9.0.0.1 がサポートするアクセス制御方式

詳しくは、『[NetBackup Web UI セキュリティ管理者ガイド](#)』を参照してください。

X フォワーディングを使った NetBackup 管理コンソールの起動が特定の Linux プラットフォーム上で失敗することがある

X フォワーディングを使った NetBackup 管理コンソールの起動は、特定の Linux プラットフォーム、特に VMware 上の Red Hat Enterprise Linux 6.0 (RHEL 6.0) で失敗する場合があります。この問題は、デフォルトの GNU C ライブラリ (glibc) と比較的新しいハードウェアでの Advanced Vector Extensions (AVX) との非互換性に起因しています。この問題は、glibc の今後のリリースで対処されます。

回避策: runInstaller を実行する前に `export LD_BIND_NOW=1` コマンドを実行します。

NetBackup 管理コンソールの X フォワーディングで断続的に問題が発生する

NetBackup 管理コンソールの X フォワーディングにおいて、断続的に問題が発生する場合があります。この動作は、X フォワーディングを使用するときのみ発生します。この問題は、ローカルコンソールでは発生しません。問題の多くは Linux サーバーにおいて発生しますが、それに限定されるものではありません。この問題は、一般的には Xming や XBrowser などの古いバージョンの X ビューアが使用されたときに発生します。

MobaXterm を使用すると、問題の発生を最小限に抑える、または問題を解消できるとも考えられます。X フォワーディングで問題が発生した場合には、X ビューアをアップグレードして同じ操作を試みるか、またはローカルコンソールからサーバーにアクセスしてください。

Solaris 10 Update 2 以降がインストールされている Solaris SPARC 64 ビットシステムで簡体中国語 UTF-8 ロケールを使用すると、NetBackup 管理コンソールでエラーが発生する

Solaris 10 Update 2 以降がインストールされている Solaris SPARC 64 ビットシステムで簡体中国語 UTF-8 ロケールを使うと、NetBackup 管理コンソールのコアダンプの問題が発生する場合があります。詳しくは、Oracle 技術ネットワーク Web サイトで次の URL からバグ ID 6901233 を参照してください。

http://bugs.sun.com/bugdatabase/view_bug.do?bug_id=6901233

この問題が発生した場合は、Oracle が提供する Solaris のパッチまたはアップグレードを適用し、この問題を修復してください。

NetBackup Bare Metal Restore の操作上の注意事項

NetBackup Bare Metal Restore (BMR) では、サーバーのリカバリ処理が自動化され簡素化されるため、オペレーティングシステムの再インストールまたはハードウェアの構成を手動で実行する必要がなくなります。このトピックでは、NetBackup 9.0.0.1 の BMR に関する操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

BMR のリストアでフォーマットとボリュームの作成手順に長時間かかることがある

オペレーティングシステムの変更により、リストアするシステムに論理ボリュームがある場合、フォーマット手順の実行中に Bare Metal Restore (BMR) のリストアに長時間かかることがあります。Red Hat Enterprise Linux 8 で LVM2 の変更が導入され、それにより udev データベースのスキャンが発生します。このスキャンのため、LVM 関連の操作に長時間かかります。

BMR リストアを実行すると、bmrrest ログに次のメッセージが表示されることがあります。

```
WARNING: Device * not initialized in udev database even after waiting  
10000000 microseconds.
```

リストアに長時間かかりますが、BMR のリストアは成功します。

NetBackup と Veritas CloudPoint に関する操作上の注意事項

この項では、Veritas CloudPoint と NetBackup 9.0.0.1 に関する操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

スナップショットジョブが例外のために失敗する

CloudPoint VM のメモリ負荷が高くと、Flexsnap-MongoDB と Flexsnap Rabbitmq コンテナが再起動します。コンテナの再起動後に、オフホストエージェントサービスコンテナが Rabbitmq との通信を確立できません。この問題は、CloudPoint オンホストエージェントや CloudPoint オフホストエージェントなど、任意のエージェントサービスで発生する可能性があります。

回避方法:

該当の Flexsnap エージェントコンテナを再起動します。コマンド `docker restart <container_name>` を使用します。

スナップショットを削除しても NetBackup Web UI に表示される

アマゾンウェブサービス (AWS) コンソールから古いスナップショットを削除しても、削除したスナップショットは NetBackup Web UI に表示されます。

ターゲットパスを削除して再作成すると個別リストアが失敗する

保護対象の VM 資産では、ファイルシステムを再作成して同じドライブまたはパスにマウントすると、その後の検出では、新しく作成されたファイルシステムの CloudPoint の資産データベースが更新されます。また、同じドライブまたはマウントポイントにマウントされている古いファイルシステムの資産は、削除対象としてマークされますが、資産データベースからは削除されません。これは、古いファイルシステムの資産に関連付けられたスナップショットが存在しない場合、保持期間が 1 日であるためです。この場合、同じドライブまたはマウントパスをターゲットとして個別リストアを開始すると、エラーが発生して操作が失敗することがあります。この問題は、このようなドライブまたはマウントパスで 1 日後に個別リストアを試行した場合には発生しません。ドライブまたはマウントパスから既存のディスクをマウント解除し、別のファイルシステムを同じドライブまたはマウントパスにマウントした場合にも、この問題は発生します。

回避方法:

最後に検出されたマウントポイントまたはドライブ上の、既存のファイルシステムまたは新しく作成されたファイルシステムから再作成された個別リストアのターゲットとして、ファイルシステムを使用しないでください。

Gov クラウドまたは中国地域でパブリッククラウドがサポートされない

Gov クラウドまたは中国地域のクラウドを使用してパブリッククラウドの地域プラグインを設定しようとする、次のエラーが発生します。

```
Plug-in authentication failed. Credentials are invalid.
```

AWS マーケットプレース AMI から作成されたインスタンスでインデックス付けがサポートされない

AWS マーケットプレース AMI から作成されたインスタンスのインデックス付け処理は、次のエラーで失敗します。

```
Failed to attach new volume: Cannot attach volume <vol-xxx>  
with Marketplace codes as the instance <i-xxx>  
is not in the 'stopped' state.
```

一貫したホストスナップショットが失敗する場合がある

次のエラーが表示され、一貫したホストのスナップショットが失敗することがあります。

```
The host level snapshot of <host_nam> cannot be performed as asset hierarchy is incomplete.
```

この問題は次のいずれかの理由で発生します。

- 個別リストアは、ホスト上で最後の 10 分間に実行されています。
- 新しいディスクがホストに接続されており、必要な資産の検出が完了していません。

[認証方式 (Authentication Method)] フィールドに空白が表示された IAM ロールを持つ AWS プラグインの構成

NetBackup にすでに追加された CloudPoint サーバーに IAM ロールを接続すると、NetBackup でロールが割り当てられません。

回避方法:

次のコマンドを使用して CloudPoint と NetBackup を同期する必要があります。

```
/usr/opensv/volmgr/bin/tpconfig -update -cloudpoint_server <ip/name which CP is registered in NBU> -cloudpoint_server_user_id admin -manage_workload CLOUD
```

MongoDB のスナップショットの作成ジョブがフリーズする場合がある

スナップショットの作成中に CloudPoint がファイルシステムをフリーズ解除できない場合、その後の MongoDB スナップショットはフリーズします。前回のスナップショットジョブの状態は成功になりますが、次のエラーがログに記録されます。

```
flexsnap-coordinator: "Jun 18 22:31:51 11f5b9b5977c
flexsnap-coordinator[1] Thread-4037029 flexsnap.coordinator:
WARNING - post_snapshot failed for child
```

```
<asset_id: eg:fs-lnxnative-ext4-74d0ad4b-d81e-4819-9a68-
bda6b3750b8e-33280449d30c2bb766721379375a1130>
with exc <Exception details>.
```

回避方法:

次のコマンドを使用して、ファイルシステムをフリーズ解除できます。

```
fsfreeze -u <mount_point>
```

Oracle アプリケーションの場合、CloudPoint がファイルシステムのフリーズ解除に失敗すると、次のスナップショットジョブは失敗します。

ジョブの実行中にクラウドプラグインを更新するとジョブが失敗する

スナップショット、リストア、レプリケーションまたは任意のジョブが進行中のときに、Azure プラグインの構成を編集すると、ジョブは次のエラーで失敗します。

```
Request failed unexpectedly: 'AzurePlugin' object has no attribute 'aops.'
```

回避方法: Azure プラグインの構成は、その構成によって管理されている資産の操作が進行中でないときのみ更新します。

ユーザーとパスワードの両方が更新されると権限拒否エラーが発生する

標準以外のユーザーで CloudPoint サーバーのエージェントレス接続のクレデンシャルを更新しようとする、問題が発生することがあります。特定の VM で新しいユーザーを作成する場合、そのユーザーは `sudoers` ファイルの一部である必要があります。そうでない場合、接続は失敗します。新しいユーザーは、パスワードなしで `sudo` コマンドを使用して `root` 操作を実行する権限を持っている必要があります。

回避方法:

この問題を回避するには、次のようにします。

- パスワードなしの `sudo` コマンドが構成されていることを確認します。 `/etc/sudoers` ファイルのユーザーエントリを確認します。
- バイナリ `flexsnap` エージェントレスおよびプラグインが、古いユーザーで作成されていないことを確認します。古いユーザーで作成された場合は、ファイルを削除します。

Google Cloud Platform の異なるソースおよびターゲットゾーンがサポートされない

Google Cloud Platform では、すべてのゾーンにわたるリストアスナップショットが許可されていますが、CloudPoint サーバーでは、リストアのソースの場所とターゲットの場所をプラグイン構成ごとに異なるゾーンに設定することはできません。この問題は、ゾーンが構成ごとに管理されていて、構成に含まれていないゾーンへのリストアはサポートされないために発生します。

回避方法:

ソースの場所とターゲットの場所が、プラグインの構成と同じゾーンにあることを確認します。

壊れたファイルシステムが検出される

リストア処理中に CloudPoint サーバーで破損したファイルシステムが検出されることがあります。この場合、スーパーブロックが無効、または構造のクリーニングが必要なエラーでマウントが失敗します。

NetBackup Deduplication に関する注意事項

NetBackup は、必要なかぎりデータソースに近い任意の場所でデータを重複排除できるいくつかの重複排除オプションを提供します。任意の場所での重複排除では、バックアップ処理のどの時点で重複排除を実行するかを選択できます。NetBackup は、NetBackup Deduplication Engine を使用する環境の重複排除を管理できます。この項では、NetBackup 9.0.0.1 の NetBackup Deduplication Engine に関する注意事項および既知の問題について説明します。

MSDP の互換性に関する最新情報について詳しくは、[NetBackup Enterprise Server とサーバー OS のソフトウェア互換性リスト](#)を参照してください。

マルチドメイン環境の WORM ストレージサーバーで「ストレージサーバーが停止しています... (Storage server is down ...)」エラーによりバックアップジョブが失敗する

2 つのドメイン (両方が NetBackup マスターサーバー) が MSDP ユーザー名を共有するマルチドメイン環境では問題が発生します。

ドメイン 1 とドメイン 2 の MSDP ユーザー名が同じで、ドメイン 1 が NetBackup WORM ストレージサーバーを作成し、ドメイン 2 が WORM ストレージサーバーに接続するように構成されている場合、バックアップジョブはエラー「Storage Server is down or unavailable」を表示して失敗します。

回避方法:

1. ドメイン 2 の新しいユーザーを作成します。NetBackup WORM ストレージサーバーで、次のコマンドを実行して MSDP ユーザーを作成します。

```
setting MSDP-user add-MSDP-user username=user_name
```

2. ドメイン 2 で、次の NetBackup コマンドを実行して、新しいユーザーを使用するように NetBackup WORM ストレージサーバーを更新します。

```
tpconfig -add -stype PureDisk -storage_server <storageserver>  
-sts_user_id <user id> -password <password>
```

3. NetBackup WORM ストレージサーバーで、NetBackup Deduplication Manager (spad) を停止してから再起動します。

```
dedupe MSDP stop
```

```
dedupe MSDP start
```

Solaris 10 で MSDP を使用するメディアサーバーを NetBackup 9.0.0.1 にアップグレードすると、バックアップジョブが失敗する

Solaris 10 で MSDP を使用するメディアサーバーを NetBackup 9.0.0.1 にアップグレードすると、MSDP の `spad` サービスと `spoold` サービスが開始されません。 `bpps` コマンドを実行して NetBackup プロセスを調べても、MSDP プロセスが検出されません。

回避方法:

1. Solaris 10 でメディアサーバーをアップグレードした後、次のスクリプトの最初の行 `#!/bin/sh` を `#!/bin/bash` に変更します。
 - `/usr/opensv/pdde/pdconfigure/scripts/installers/PDDE_initConfig.sh`
 - `/usr/opensv/pdde/pdconfigure/pdde`
 - `/usr/opensv/pdde/pdconfigure/etc/init.d/Solaris/pdde`
 - `/usr/opensv/pdde/pdconfigure/etc/init.d/Solaris/pdservice`
2. MSDP を使用するメディアサーバーのすべての NetBackup サービスを再起動するには、次のコマンドを実行します。

```
/usr/opensv/netbackup/bin/bp.kill_all  
  
/usr/opensv/netbackup/bin/bp.start_all
```

Solaris 10 で MSDP ストレージサーバーの構成に失敗する

Solaris 10 で新しい MSDP ストレージサーバーを構成しようとしても、正常に構成できません。

回避方法:

Solaris 10 で MSDP ストレージサーバーを構成する前に、次のスクリプトの最初の行の `#!/bin/sh` を `#!/bin/bash` に変更します。

- `/usr/opensv/pdde/pdconfigure/scripts/installers/PDDE_initConfig.sh`
- `/usr/opensv/pdde/pdconfigure/pdde`
- `/usr/opensv/pdde/pdconfigure/etc/init.d/Solaris/pdde`
- `/usr/opensv/pdde/pdconfigure/etc/init.d/Solaris/pdservice`

NetBackup Deduplication Engine のクレデンシャルでアンパサンド文字 (&) が許可されない

NetBackup Deduplication Engine のクレデンシャルでは、アンパサンド文字 (&) は使用しないでください。

重複排除コンポーネントは、NetBackup Deduplication Engine との通信時にクレデンシャルを使用します。ストレージサーバーを構成する際には、NetBackup Deduplication Engine のクレデンシャルを入力します。

NetBackup for NDMP の操作上の注意事項

NetBackup for NDMP は、NetBackup のオプション製品です。Network Data Management Protocol (NDMP) を使用して、NetBackup で Network Attached Storage (NAS) システムのバックアップおよびリストアを開始および制御できます。このトピックでは、NetBackup 9.0.0.1 の NetBackup for NDMP に関する操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

ファイルパスの親ディレクトリが NDMP 増分イメージに存在しないことがある

NetBackup のネットワークデータ管理プロトコル (NDMP) バックアップポリシーをバックアップ選択項目の `set type=tar` 指示句で設定している場合に、問題が起きることがあります。増分 NDMP バックアップが保存するファイルのパスの親ディレクトリはバックアップイメージに存在しない場合があります。この問題について詳しくは、ベリタス社のサポート Web サイトで次の TechNote を参照してください。

<http://www.veritas.com/docs/000095049>

NetBackup for OpenStack の操作上の注意事項

NetBackup for OpenStack はオプションの NetBackup アプリケーションです。このトピックでは、NetBackup 9.0.0.1 の NetBackup for OpenStack に関する操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

増分バックアップのインスタンスボリュームをマウントできない

増分バックアップ用インスタンスに新たに追加されたディスクは正常にバックアップされませんが、これらのディスクはマウントできません。

NetBackup for OpenStack VM が 3 ノードクラスタの場合、NetBackup マスターサーバーがトークンを再発行しない

NetBackup for OpenStack VM が 3 ノードクラスタの場合、NetBackup for OpenStack コンフィギュレータにおける NetBackup 証明書のトークンの再発行が機能しません。

回避方法:

この問題を解決するには、マスターサーバーでトークンの自動再発行の許可を有効にします。NetBackup for OpenStack コンフィギュレータの[トークン (Token)]フィールドに "" と入力する必要があります。この構成では、マスターサーバーが提供した証明書が NetBackup for OpenStack VM にすでに存在する場合は続行できます。

スナップショットがあるポリシーを削除すると、エラーメッセージとともに成功メッセージが表示される

スナップショットがあるポリシーを削除すると、次の成功メッセージとエラーメッセージが表示されます。ただしポリシーは削除されないため、エラーメッセージのみが表示されるべきです。

- Error: Invalid state: This workload contains snapshots. Please delete all snapshots and try again.
- Success: Deleted: <policy name>

NBCA を使用して NetBackup マスターサーバーに接続できない

NetBackup for OpenStack VM の構成中に NetBackup マスターサーバー名を入力すると、次のエラーメッセージが表示されます。

```
Failed to establish connection with the NetBackup master server.  
Error: HTTPSConnectionPool(host='NBU.master.server', port=443): Max  
retries exceeded with url: /netbackup/security/ping (Caused by  
NewConnectionError('<urllib3.connection.HTTPSConnection object at  
0x7f9e466b0ef0>: Failed to establish a new connection: [Errno -2]  
Name or service not known',))
```

回避方法:

この問題を解決するには、`/etc/hosts` に IP ホスト名マッピングを追加します。

詳しくは、次のサポート記事を参照してください。

https://www.veritas.com/support/en_US/article.100045941

リストア後に除外された Ceph ボリュームをマウントまたはフォーマットできない

Ceph に格納されている VM ボリュームは、必要に応じてバックアップから正常に除外されます。

リストアによって空の Ceph ボリュームが作成されますが、このボリュームは接続またはフォーマットできません。

リストアされた VM に空のメタデータ config_drive が接続される

リストアのたびに、メタデータ config_drive が空白値で設定されます。

回避方法:

メタデータ config_drive を削除するか、必要な値を設定します。

新しい NetBackup for OpenStack VM をクラスタに追加するとき、NBOSVM の再構成に失敗する

既存の NetBackup for OpenStack VM にノードを追加すると、NetBackup for OpenStack の再構成に失敗します。

理由は、以前の MySQL パスワードが機能しておらず、MySQL のルートアクセスがリセットされたためです。

回避方法:

構成済みの NetBackup for OpenStack VM の /root/.my.cnf ファイルを削除し、再構成します。

NetBackup for OpenStack クラスタで新しいノードを取得した後にデータベースが同期されない

NetBackup for OpenStack の再構成後に、既存の NetBackup for OpenStack VM クラスタにさらに 2 つのノードを追加した場合 (「インポートポリシー」が未選択)、データベースは既存の NetBackup for OpenStack VM と同期されません。

2 つの新しいノードを追加する間、node1 のデータベースが 2 つの新しいノードと同期され、新しい 3 ノードの NetBackup for OpenStack VM クラスタで再構成後に既存のポリシーを利用できることが期待されます。

回避方法:

CLI からポリシーのインポートを実行します。

ブートディスク上のデータが除外されているにもかかわらずバックアップされる

VM のメタデータ `exclude_boot_disk_from_backup` は `true` に設定されていましたが、リストアされたインスタンスは、データがバックアップおよびリストアされたことを示していません。

再初期化とインポートの後、OpenStack 証明書が見つからない

再初期化では、OpenStack との通信に使用されるアップロード済みの OpenStack 証明書は保持されません。

回避方法:

証明書を再度アップロードします。

CLI でのインポートによってスケジューラの信頼の値が無効に変更される

CLI でインポート機能を使用すると、スケジューラの信頼が有効から無効に変更されません。

回避方法:

再初期化後に、UI からインポートオプションを使用して NetBackup を構成します。

NetBackup for OpenStack Appliance を再初期化した後、ノードの詳細を取得できない

NetBackup for OpenStack Appliance を再初期化した後、UI と CLI にノードの情報が表示されません。

回避方法:

NetBackup for OpenStack ノードで `wlm-workloads` および `wlm-cron` サービスを再起動します。

```
systemctl restart wlm-workloads
```

```
systemctl restart wlm-cron
```

多数のポリシージョブが同時に実行されるとスナップショットが「object is not subscriptable」で失敗する

25 を超える作業負荷を同時に実行すると、エラーが発生します。nbosdmapi サービスが応答しません。

スナップショットは Object is not subscriptable. エラーで失敗します。

回避方法:

既知の回避方法を実行するには、ベリタスのサポートにお問い合わせください。

SSL 対応 Keystone URL に対して安全でない方法での操作が許可されない

SSL 対応 OpenStack の場合、TLS CA 証明書バンドルの欠落エラーでバックアップジョブとリストアジョブが失敗します。

回避方法:

提供された OpenStack CA を使用して NetBackup for OpenStack Appliance を構成します。

または、OpenStack CA を `/etc/workloadmgr/ca-chain.pem` に含めます。

NetBackup の国際化と日本語化の操作に関する注意事項

このトピックでは、NetBackup 9.0.0.1 の国際化、日本語化、および英語以外のロケールに関する操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

データベースおよびアプリケーションエージェントでのローカライズ環境のサポート

NetBackup データベースおよびアプリケーションエージェントの次のフィールドでは、ASCII 以外の文字がサポートされています。

- Oracle:
データファイルパス、表領域名、TNS パス
- DB2:
データファイルパス、表領域名
- SAP:
英語版 SAP は、ローカライズされた OS で動作します。(ローカライズされた SAP フィールドは特にありません。)
- Exchange:
メールボックス、添付ファイルの名前と内容、パブリックフォルダ、連絡先、カレンダー、フォルダ、データベースパス
- SharePoint:
サイトコレクション名、ライブラリ、サイトコレクション内のリスト

- Lotus Notes:
電子メールデータ (.nsf ファイル)
- Enterprise Vault (EV) エージェント:
ボルトストア、パーティション、データ
- VMware:
ユーザー名、パスワード、VM 表示名、データセンター、フォルダ、データストア、リソースプール、VApp、ネットワーク名、VM ディスクパス

特定の NetBackup ユーザー定義の文字列には非 US ASCII 文字を含めないようにする

NetBackup の次のユーザー定義の文字列には、非 US ASCII 文字を含めないようにする必要があります。

- ホスト名 (マスターサーバー、メディアサーバー、Enterprise Media Manager (EMM) サーバー、ボリュームデータベースホスト、メディアホスト、クライアント)
- ポリシー名
- ポリシーの KEYWORD (Windows のみ)
- バックアップ、アーカイブ、およびリストアの KEYWORD (Windows のみ)
- ストレージユニット名
- ストレージユニットディスクのパス名 (Windows のみ)
- ロボット名
- デバイス名
- スケジュール名 (Schedule Name)
- メディア ID
- ボリュームグループ名 (Volume group name)
- ボリュームプール名
- メディアの説明 (Media description)
- Vault ポリシー名
- Vault レポート名
- BMR 共有リソースツリー (SRT) 名
- トークン名

NetBackup Snapshot Client の操作上の注意事項

NetBackup Snapshot Client は NetBackup に各種のスナップショットベースの機能を提供します。ファイバーチャネルネットワーク (SAN) または従来の LAN に接続されている UNIX、Linux および Windows プラットフォームのクライアントがサポートされています。それぞれのスナップショット方式は、データが格納されるストレージサブシステムに組み込まれているスナップショットテクノロジーに依存します。この項では、NetBackup 9.0.0.1 の Snapshot Client に関する操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

HPE 3PAR アレイのスナップショットのインポートが状態コード 4213 で失敗する

HPE 3PAR アレイのスナップショットのインポートは、状態コード 4213 で失敗します。現在、CloudPoint は VSO (仮想サーバー所有者) スナップショット方式で、「クローン」のスナップショット形式をサポートしていません。

回避策: 「COW」(コピーオンライト) のスナップショット形式を使用してポリシーを再構成してください。

指定した時点へのロールバック後のスナップショットの削除

ネットワーク接続ストレージ (NAS) の VSO FIM スナップショット方式では、古い複製から指定した時点へのロールバックを実行すると、その時点以降のスナップショットがストレージアレイから削除されます。この動作により、NetBackup イメージの一貫性がなくなるため、イメージは削除されます。

同様に、いずれかのマウントポイントから指定した時点に古いスナップショットをロールバックすると、そのマウントポイントに関連付けられているスナップショットのみが削除されます。イメージも、一貫性がなくなるため削除されます。ただし、他のマウントポイントに属する他のスナップショットはストレージアレイに残ったままであるため、手動でクリーンアップする必要があります。

スナップショットからのインデックス操作でスナップショットの内容がカタログに正確に入力されない

メモ: この問題は、オンプレミスの作業負荷と UNIX プラットフォームに固有です。

スナップショットからインデックス操作を行う場合、スナップショットのマウントホスト上で /usr/opensv ディレクトリが別のパスにリンクされていると、スナップショットの内容がカタログ内で正確にインデックス付けされません。

回避策: スナップショット操作のみが存在するようにストレージライフサイクルポリシーを再構成して、スナップショットからのインデックス操作を削除します。

NetBackup 仮想化の操作上の注意事項

NetBackup には、仮想環境を保護するためのいくつかの方法が用意されています。NetBackup は、主に VMware と Hyper-V という 2 つの仮想化技術を保護できますが、その他の仮想化技術も NetBackup によって保護できます。このトピックでは、NetBackup 9.0.0.1 による仮想化技術の保護に関する操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

NetBackup for VMware の操作上の注意事項

NetBackup for VMware は、VMware ESX Server 上で動作する VMware 仮想マシンのバックアップおよびリストアを実現します。また、VMware vCenter 用 NetBackup プラグイン (vCenter プラグイン) を使うと、vSphere Client で仮想マシンのバックアップを監視し、バックアップから仮想マシンをリカバリすることができます。このトピックには、NetBackup for VMware および NetBackup 9.0.0.1 の vCenter プラグインに関する操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

自動スケジュールおよび WORM ストレージを使用すると、VMware 保護計画の作成に失敗する場合があります

次のオプションを選択すると、保護計画の作成は VMware 作業負荷に対して機能しません。

- すべてのスケジュール頻度は 1 週間未満に設定されます。
- WORM ストレージには、1 週間未満で要求された保持期間よりも長い、有効な[ロックの最大期間 (Lock Maximum Duration)]があります。

回避方法: WORM 対応ストレージで VMware を保護するために保護計画を使用する場合は、WORM ストレージの[ロックの最大期間 (Lock Maximum Duration)]を 1 週間より長く設定します。または、保護計画のスケジュール形式を明示的に選択します。

メディアサーバーが仮想化サーバーにアクセスできず、状態コード 200 で失敗する

次のシナリオを検討します。

- NetBackup で NAT クライアントのサポートが有効になっている。
- NetBackup 管理コンソールを使用して STU が作成されている。
- NetBackup Web UI を使用して VMware のバックアップの保護計画を作成する。
- 仮想化サーバーにアクセスするバックアップホストを指定する。
- VMware 資産に保護計画を割り当てる。
- サブスクリプションの一部として作成されたポリシーを確認する。

- **NetBackup** 管理コンソールの [VMware] タブで正しい VMware バックアップホストが表示されているが、[クライアント (Clients)] の [仮想マシンの自動選択を実行するための NetBackup ホスト (NetBackup host to perform automatic virtual machine selection)] オプションが [バックアップメディアサーバー (Backup Media Server)] に設定されている。メディアサーバーは仮想化サーバーにアクセスできず、バックアップが状態コード 200 で失敗する。

回避方法:

- 1 **NetBackup** 管理コンソール、[NetBackup の管理 (NetBackup Management)]、[ポリシー (Policies)] の順に移動します。
- 2 右ペインで、適切なポリシーを選択します。
- 3 [ポリシーの変更 (Change Policy)] ダイアログボックスで、[クライアント (Clients)] タブを選択します。
- 4 [VMware インテリジェントポリシーの問い合わせを通じて自動的に選択 (Select automatically through VMware Intelligent Policy query)] オプションをクリックします。
- 5 [仮想マシンの自動選択を実行するための NetBackup ホスト (NetBackup host to perform automatic virtual machine selection)] ドロップダウンリストから必要なバックアップホストを選択します。
- 6 [OK] をクリックします。

NetBackup ユーザーの SORT について

この付録では以下の項目について説明しています。

- [Veritas Services and Operations Readiness Tools について](#)
- [SORT の新規インストールのための推奨手順](#)
- [SORT のアップグレードのための推奨手順](#)

Veritas Services and Operations Readiness Tools について

Veritas Services and Operations Readiness Tools (SORT) は、Veritas エンタープライズ製品をサポートするスタンドアロンと Web ベースの強力なツールセットです。

NetBackup では、SORT によって、複数の UNIX/Linux または Windows 環境にまたがってホストの設定を収集、分析、報告する機能が提供されます。このデータは、システムで NetBackup の最初のインストールまたはアップグレードを行う準備ができていかどうかを評価するのに役立ちます。

次の Web ページから SORT にアクセスします。

<https://sort.veritas.com/netbackup>

SORT ページに移動すると、次のようにより多くの情報を利用可能です。

- インストールとアップグレードのチェックリスト
このツールを使うと、システムで NetBackup のインストールまたはアップグレードを行う準備ができていかどうかを確認するためのチェックリストを作成できます。このレポートには、指定した情報に固有のソフトウェアとハードウェアの互換性の情報がすべて含まれています。さらに、製品のインストールまたはアップグレードに関する手順とその他の参照先へのリンクも含まれています。

- **Hotfix と EEB Release Auditor**
このツールを使うと、インストールする予定のリリースに必要な Hotfix が含まれているかどうかを調べることができます。
- **カスタムレポート**
このツールを使うと、システムと Veritas エンタープライズ製品に関する推奨事項を取得できます。
- **NetBackup のプラットフォームと機能の今後の予定**
このツールを使用すると、今後 Veritas が新しい機能や改善された機能と置き換える項目に関する情報を入手できます。さらに、今後 Veritas が置き換えることなく廃止する項目に関する情報を入手することもできます。これらの項目のいくつかには NetBackup の特定の機能、サードパーティ製品の統合、Veritas 製品の統合、アプリケーション、データベースおよび OS のプラットフォームが含まれます。

SORT ツールのヘルプが利用可能です。SORT ホームページの右上隅にある[ヘルプ (Help)]をクリックします。次のオプションがあります。

- 実際の本のようにページをめくってヘルプの内容を閲覧する
- 索引でトピックを探す
- 検索オプションを使ってヘルプを検索する

SORT の新規インストールのための推奨手順

Veritas ベリタスは新規の NetBackup ユーザーに対して、SORT の最初の導入時にリストされる 3 つの手順を実行することをお勧めします。このツールには他にも多くの機能が備わっていますが、これらの手順は SORT の概要を知る上で役立ちます。さらに、これらの手順を実行することで、その他の SORT 機能に関する有用で基本的な知識が備わります。

表 A-1

手順	詳細
SORT Web ページに Veritas Account を作成します。	p.41 の「 SORT ページに Veritas Account を作成する方法 」を参照してください。
汎用インストールレポートを作成します。	p.42 の「 汎用インストールチェックリストを作成する方法 」を参照してください。

手順	詳細
システム固有のインストールレポートを作成します。	<p>p.43 の「システム固有のインストールレポートを作成する方法 (Windows の場合)」を参照してください。</p> <p>p.43 の「システム固有のインストールレポートを作成する方法 (UNIX または Linux の場合)」を参照してください。</p>

SORT ページに Veritas Account を作成する方法

- 1 Web ブラウザで、次の場所に移動します:
<https://sort.veritas.com/netbackup>
- 2 右上で[ログイン (Login)]をクリックしてから、[今すぐ登録 (Register now)]をクリックします。
- 3 要求された次のログインおよび連絡先情報を入力します:

電子メールアドレス (Email address)	電子メールアドレスを入力し、検証してください
パスワード (Password)	パスワードを入力し、検証してください
名 (First name)	名を入力してください
姓 (Last name)	姓を入力してください
会社名 (Company name)	会社名を入力してください
国 (Country)	国を入力してください
優先言語 (Preferred language)	優先言語を選択してください
CAPTCHA テキスト (CAPTCHA text)	表示される CAPTCHA テキストを入力してください。必要に応じて、イメージを更新してください。
- 4 [送信 (Submit)]をクリックします。
- 5 ログイン情報の受信時に SORT にログインしてカスタマイズした情報のアップロードを開始できます。

汎用インストールチェックリストを作成する方法

- 1 Web ブラウザで、次の場所に移動します:

<https://sort.veritas.com/netbackup>

- 2 [インストールとアップグレードのチェックリスト (Installation and Upgrade Checklist)] ウィジェットを見つけて選択します。

- 3 要求された情報を指定します

製品 (Product)	ドロップダウンメニューから適切な製品を選択してください。 NetBackup の場合は NetBackup Enterprise Server または NetBackup Server を選択してください。
インストールするまたはアップグレード後の製品バージョン (Product version you are installing or upgraded to)	NetBackup の適切なバージョンを選択してください。最新バージョンは常にリストの一番上に示されます。
プラットフォーム (Platform)	生成するチェックリストに対応するオペレーティングシステムを選択してください。
プロセッサ (Processor)	チェックリストに対して適切なプロセッサの種類を選択してください。
アップグレード前の製品バージョン (任意) (Product version you are upgrading from (optional))	新規インストールの場合は、何も選択しないでください。アップグレードの場合は、現在インストールされている NetBackup のバージョンを選択できます。

- 4 [チェックリストの生成 (Generate Checklist)] をクリックします。

- 5 選択内容に対応するチェックリストが作成されます。この画面で選択内容を変更できます。[チェックリストの生成 (Generate Checklist)] をクリックすると、新しいチェックリストが作成されます。

結果の情報は PDF として保存できます。NetBackup では多数のオプションを利用可能で、それらの多くは生成されたチェックリストに示されます。各セクションを十分に確認して、環境に適用するかどうかを判断してください。

システム固有のインストールレポートを作成する方法 (Windows の場合)

- 1 SORT の Web サイトに移動します。
<https://sort.veritas.com/netbackup>
- 2 [インストールとアップグレード (Installation and Upgrade)] セクションで、[SORT データコレクタによるインストールとアップグレードのカスタムレポート (Installation and Upgrade custom reports by SORT data collectors)] を選択します。
- 3 [データコレクタ (Data Collectors)] タブを選択します
- 4 [グラフィカルユーザーインターフェース (Graphical User Interface)] のラジオボタンを選択して、プラットフォームに対して適切なデータコレクタをダウンロードします。
データコレクタは OS 固有です。Windows コンピュータに関する情報を収集するには、Windows データコレクタが必要です。UNIX コンピュータに関する情報を収集するには、UNIX データコレクタが必要です。
- 5 ダウンロードが終わったら、データコレクタを起動します。
- 6 [ようこそ (Welcome)] 画面の [製品ファミリー (product family)] セクションで NetBackup を選択して、[次へ (Next)] をクリックします。
- 7 [システムの選択 (System Selection)] 画面で、分析するすべてのコンピュータを追加します。[参照 (Browse)] をクリックすると、分析に追加可能なコンピュータのリストを確認できます。Veritas 管理者アカウントまたは root アカウントでツールを起動することをお勧めします。
- 8 すべてのシステムを選択したら、[システム名 (System names)] セクションを確認して [次へ (Next)] をクリックします。
- 9 [検証オプション (Validation Options)] 画面の [検証オプション (Validation options)] 下で、アップグレード後のバージョンを選択します。
- 10 [次へ (Next)] をクリックして続行します。
- 11 ユーティリティによって要求されたチェックが実行され、結果が表示されます。レポートをマイ SORT にアップロードできます。また結果を印刷したり保存できます。Veritas 分析を一元管理しやすくするために、結果はマイ SORT Web サイトにアップロードすることをお勧めします。[アップロード (Upload)] をクリックして、マイ SORT のログイン情報を入力すると、データがマイ SORT にアップロードされます。
- 12 終了したら、[完了 (Finish)] をクリックしてユーティリティを閉じます。

システム固有のインストールレポートを作成する方法 (UNIX または Linux の場合)

- 1 SORT の Web サイトに移動します。
<https://sort.veritas.com/netbackup>
- 2 [インストールとアップグレード (Installation and Upgrade)] セクションで、[SORT データコレクタによるインストールとアップグレードのカスタムレポート (Installation and Upgrade custom reports by SORT data collectors)] を選択します。

- 3 [データコレクタ (Data Collector)]タブを選択します。
- 4 プラットフォームに対して適切なデータコレクタをダウンロードします。

データコレクタは OS 固有です。Windows コンピュータに関する情報を収集するには、Windows データコレクタが必要です。UNIX コンピュータに関する情報を収集するには、UNIX データコレクタが必要です。
- 5 ダウンロード済みのユーティリティを含むディレクトリに変更します。
- 6 実行 (Run). /sortdc

ユーティリティによって、最新バージョンのユーティリティがインストールされていることを確認するためのチェックが実行されます。さらに、ユーティリティによって、最新のデータが含まれているかどうかチェックされます。この処理の後、ユーティリティによって、このセッションのログファイルの場所がリストされます。
- 7 要求されたら、Enter キーを押して続行します。
- 8 メインメニューで[NetBackup ファミリー (NetBackup Family)]を選択します。
- 9 [何をしますか? (What task do you want to accomplish?)]というプロンプトが表示されたら、[インストールレポートのアップグレード (Installation/Upgrade report)]を選択します。

カンマで項目を区切ることで、複数のオプションを選択できます。
- 10 レポートに含めるシステムを指定します (複数可)。

指定したシステムで以前にレポートを実行していた場合は、そのレポートを再び実行するようプロンプトが表示されます。[はい (Yes)]を選択すると、レポートが再実行されます。

ユーティリティによって、セッションのログファイルの場所が再びリストされます。

ユーティリティの進捗状況が画面に表示されます。
- 11 インストールまたはレポートをアップグレードする製品に関するプロンプトが表示されたら、NetBackup を指定します。
- 12 インストールする NetBackup のバージョンに対応する数字を入力します。

ユーティリティによって、セッションのログファイルの場所が再びリストされます。

ユーティリティの進捗状況が画面に表示されます。
- 13 ユーティリティによって、レポートをオンラインで確認する場合には SORT Web サイトにアップロードするよう促すプロンプトが表示されます。オンラインレポートを利用すると、システム上のテキストベースのレポートよりも詳細な情報を入手できます。
- 14 タスクが完了したら、ユーティリティを終了できます。オプションでツールに関するフィードバックを提供できます。Veritas 社はフィードバックを基にツールの改良を実施しています。

SORT のアップグレードのための推奨手順

Veritas ベリタスは現在の NetBackup ユーザーに対して、SORT の最初の導入時にリストされる 3 つの手順を実行することをお勧めします。このツールには他にも多くの機能が備わっていますが、これらの手順はすでに NetBackup を使っているユーザーにとって SORT の概要を知る上で役立ちます。さらに、これらの手順を実行することで、その他の SORT 機能に関する有用で基本的な知識が備わります。

表 A-2

手順	詳細
SORT Web ページに Veritas Account を作成します。	p.41 の「 SORT ページに Veritas Account を作成する方法 」を参照してください。
システム固有のアップグレードレポートを作成します。	p.43 の「 システム固有のインストールレポートを作成する方法 (Windows の場合) 」を参照してください。 p.43 の「 システム固有のインストールレポートを作成する方法 (UNIX または Linux の場合) 」を参照してください。
今後のプラットフォームと機能の予定を確認します。	p.45 の「 今後のプラットフォームの変更と機能の予定を確認する方法 」を参照してください。
Hotfix と EEB Release Auditor の情報を確認します。	p.45 の「 Hotfix と EEB の情報を確認する方法 」を参照してください。

今後のプラットフォームの変更と機能の予定を確認する方法

- 1 Web ブラウザで、次の場所に移動します:
<https://sort.veritas.com/netbackup>
- 2 [NetBackup のプラットフォームと機能の今後の予定 (NetBackup Future Platform and Feature Plans)]ウィジェットを見つけて選択します。
- 3 [情報の表示 (Display Information)]を選択します。
- 4 表示される情報を確認します
- 5 任意 - サインインによる通知の作成 - [サインインによる通知の作成 (Sign in and create notification)]をクリックします。

Hotfix と EEB の情報を確認する方法

- 1 Web ブラウザで、次の場所に移動します:
<https://sort.veritas.com/netbackup>
- 2 [NetBackup Hotfix と EEB Release Auditor (NetBackup Hot Fix and EEB Release Auditor)]ウィジェットを見つけて選択します。

- 3 Hotfix または緊急エンジニアリングバイナリ (EEB) の情報を入力します。
- 4 [検索 (Search)] をクリックします。
- 5 新しいページに、以下の列が含まれた表が表示されます。

EEB 識別子の Hotfix (Hot fix of EEB Identifier)	前の画面で入力した Hotfix または EEB 番号が表示されます。
説明 (Description)	Hotfix または EEB に関連付けられた問題の説明が表示され ます。
解決済みのバージョン (Resolved in Versions)	この問題が解決された NetBackup のバージョンが示されま す。

NetBackup のインストール要件

この付録では以下の項目について説明しています。

- [NetBackup のインストール要件について](#)
- [NetBackup に必要なオペレーティングシステムパッチと更新](#)
- [NetBackup 9.0 のバイナリサイズ](#)
- [NetBackup 9.0.0.1 のバイナリサイズ](#)

NetBackup のインストール要件について

今回の NetBackup のリリースには、インストールに必要な最小システム要件と手順への変更が含まれている可能性があります。これらの変更は、Windows と UNIX の両方のプラットフォームの最小システム要件に影響します。『NetBackup リリースノート』のインストール指示に関する多くの情報は、利便性を考慮して提供されています。インストールに関する詳細な説明は、『NetBackup インストールガイド』、『NetBackup アップグレードガイド』、『NetBackup スタートガイド』に記載されています。

p.15 の「[NetBackup のインストールとアップグレードの操作上の注意事項](#)」を参照してください。

- NetBackup サーバーソフトウェアをアップグレードする前に、NetBackup カタログをバックアップして、カタログバックアップが正常に終了したことを確認する必要があります。
- データベースの再構築は、多くの場合、NetBackup のメジャー、マイナー（一重ドット）、およびリリース更新（二重ドット）の各バージョンで発生します。したがって、NetBackup 9.0.0.1 にアップグレードする前に、NetBackup データベースのサイズ以上の空きディスク領域が利用可能になっている必要があります。つまり、デフォルトインストールに対して、/usr/opensv/db/data (UNIX) または

<install_path>\¥Veritas¥NetBackupDB¥data (Windows) のディレクトリを含むファイルシステムにそれだけの空き領域が必要です。これらのいずれかのディレクトリの一部のファイルの場所を変更する場合は、その場所にファイルのサイズ以上の空き領域が必要です。代替の場所への NBDB データベースファイルの格納については、『NetBackup 管理者ガイド Vol. 1』を参照してください。

メモ: この空きディスク領域の要件は、アップグレードを始める前に、カタログバックアップを正常に終了するためのベストプラクティスを実行していることを前提としています。

- マスターサーバーとメディアサーバーでは、NetBackup を正常に実行するために、プロセス単位のファイル記述子の最小ソフト制限を 8000 にする必要があります。ファイル記述子の数が不十分な場合の影響については、Veritas のサポート Web サイトの次の TechNote を参照してください。
<http://www.veritas.com/docs/000013512>
- NetBackup のマスターサーバーとメディアサーバーは、起動時および 24 時間ごとにサーバーのバージョン情報を交換します。この交換は自動的に行われます。アップグレード後の起動時に、アップグレードされたメディアサーバーは vmd サービスを使って自身のバージョン情報をサーバーリストに示されているすべてのサーバーにプッシュします。
- Veritas では、メディアサーバーのアップグレードの実行中は、マスターサーバーのサービスを起動して利用可能な状態にしておくことをお勧めします。
- すべての圧縮ファイルは gzip を使用して圧縮されています。これらのファイルのインストールには gunzip と gzip が必要なので、NetBackup をインストールする前にコンピュータにこれらがインストールされていることを確認します。HP-UX を除くすべての UNIX プラットフォームでは、バイナリは /bin または /usr/bin に存在し、このディレクトリが root ユーザーの PATH 変数に含まれていると想定されています。HP-UX システムでは、gzip コマンドおよび gunzip コマンドは /usr/contrib/bin に存在すると想定されています。インストールスクリプトを実行すると、PATH 変数にこのディレクトリが追加されます。UNIX でインストールを正常に実行するには、これらのコマンドが存在する必要があります。

NetBackup に必要なオペレーティングシステムパッチと更新

NetBackup のサーバーおよびクライアントのインストールは、NetBackup 互換性リストに一覧表示されているオペレーティングシステム (OS) の定義済みセットでのみサポートされます。ほとんどの OS ベンダーが、製品のパッチ、更新、およびサービスパック (SP) を提供しています。プラットフォームのテスト時には OS の最新の SP または更新レベルでテストすることが、NetBackup のクオリティエンジニアリングのベストプラクティスです。

したがって、NetBackup はすべてのベンダー GA 更新 (n.1, n.2 など) または SPS (SP1, SP2 など)。ただし、既知の互換性の問題が特定の SP または更新された OS レベルに存在する場合、この情報は互換性リストで特定されます。このような互換性の問題が見られない場合、Veritas 社は、サーバーとクライアントに最新の OS 更新をインストールしてから NetBackup をインストールまたはアップグレードすることをお勧めします。

互換性リストには、最新のメジャーリリースラインでの最小の NetBackup バージョンをサポートするために必要な最小の OS レベルに関する情報が含まれます。場合によっては、NetBackup の新しいリリースが特定のベンダーによる OS 更新またはパッチを必要とすることがあります。表 B-1 には、NetBackup 9.0.0.1 に必要な OS の更新とパッチが含まれています。ただし、この情報はリリース間で変わる場合があります。NetBackup 9.0.0.1 およびその他の NetBackup リリースに関する最新の必須 OS パッチ情報は、Veritas SORT (Services and Operational Readiness Tools) Web サイトおよび NetBackup 互換性リストで確認できます。

p.58 の「NetBackup の互換性リストと情報について」を参照してください。

p.39 の「Veritas Services and Operations Readiness Tools について」を参照してください。

メモ: OS ベンダーは、表 B-1 にリストされているパッチよりも優先されるまたはそれに置き換わる最新の更新またはパッチをリリースしている可能性があります。この表と SORT にリストされている OS パッチは、NetBackup のインストールと実行に必要な最小のパッチレベルであると見なしてください。表 B-1 にリストされている OS 更新、パッチ、パッチバンドルに優先するまたは置き換わるものは、特に指定していないかぎりサポートされません。Veritas 個々の OS ベンダーのサポート Web サイトを参照して最新のパッチ情報を入力することをお勧めします。

メモ: 表 B-1 に記載されている NetBackup クライアント向けの必須パッチも、クライアントが適切に動作するためにマスターサーバーとメディアサーバーにインストールする必要があります。

表 B-1 に必要なオペレーティングシステムパッチと更新
 SORT_do_not_remove_os_patchesNetBackup9.0.0.1

オペレーティングシステムの種類とバージョン	NetBackup の役割	パッチ	注意事項
AIX 6.1		AIX ランタイムライブラリ 9.0.0.3 以降	ランタイムライブラリは 9.0.0.3 以降である必要があります。バージョン 9.0.0.3 に変更した後に再起動する必要がある場合があります。
Beijing Linx Software Corp Linx OS	マスター、メディア、 クライアント	カーネル 2.6.32.26 以降	

オペレーティングシステムの種類とバージョン	NetBackup の役割	パッチ	注意事項
CentOS 6.x	マスター、メディア、クライアント	カーネル 2.6.32-608.el6 以降	
CentOS 7.x	マスター、メディア、クライアント	カーネル 3.10.0-241.el7 以降	
Debian 8	マスター、メディア、クライアント	カーネル 3.16.7-1 以降	詳細情報を参照できます。 Debian 8 リリースノート
HP-UX	クライアントのみ	COMPLIBS.LIBM-PS32	HP-UX プラットフォーム上に AT をインストールする場合、このパッチが必要になります。
HP-UX IA-64	クライアントのみ	Networking.NET-RUN: /usr/lib/libip6.sl	
	クライアントのみ	Networking.NET-RUN-64: /usr/lib/pa20_64/libip6.1	
	クライアントのみ	Networking.NET-RUN-64: /usr/lib/pa20_64/libip6.sl	
	クライアントのみ	Networking.NET2-RUN: /usr/lib/hpux32/libip6.so	
	クライアントのみ	Networking.NET2-RUN: /usr/lib/hpux32/libip6.so.1	
	クライアントのみ	Networking.NET2-RUN: /usr/lib/hpux64/libip6.so	
	クライアントのみ	Networking.NET2-RUN: /usr/lib/hpux64/libip6.so.1	
	クライアントのみ	Networking.NET2-RUN: /usr/lib/libip6.1	
HP-UX 11.31	メディア	QPK1131 (B.11.31.1003.347a) パッチバンドル	このパッチバンドルは NetBackup メディアサーバーのサポートに必要です。これは HP-UX March 2010 パッチバンドルです。
Oracle Linux 6	メディア、クライアント	カーネル 2.6.32-504.14.1 以降	詳細情報を参照できます。 カーネルのセキュリティとバグ修正に関する更新

オペレーティングシステムの種類とバージョン	NetBackup の役割	パッチ	注意事項
Oracle Linux 7	メディア、クライアント	カーネル 3.10.0-229.7.1 以降	詳細情報を参照できます。 カーネルのセキュリティとバグ修正に関する更新
Red Hat Enterprise Linux 6	マスター、メディア、クライアント	カーネル 2.6.32-504.16.2.el6 以降	詳細情報を参照できます。 Red Hat テクニカルノート RHSA-2015:0864 - セキュリティアドバイザリ
Red Hat Enterprise Linux 7	マスター、メディア、クライアント	カーネル 3.10.0-229.7.2.el7 以降	詳細情報を参照できます。 Red Hat テクニカルノート RHSA-2015:1137 - セキュリティアドバイザリ
SUSE Linux 11	マスター、メディア、クライアント	SUSE Linux Enterprise 11 Service Pack 3 以降	詳細情報を参照できます。 Linux カーネルのセキュリティ更新: SUSE-SU-2014:1695-1
SUSE Linux 12	マスター、メディア、クライアント	カーネル 3.12.31 以降	詳細情報を参照できます。 Linux カーネルのセキュリティ更新: SUSE-SU-2015:0068-1
	クライアント	KB952696	暗号化されたファイルをバックアップするために必要な更新を含んでいます。

Veritas では、Windows オペレーティングシステムで NetBackup を実行する場合は、次の更新をお勧めします。

- Microsoft Storport の Hotfix。この Hotfix は、Windows x86 および x64 の SP1 と SP2 の両方に適用されます (必須)。<http://support.microsoft.com/?id=932755>
- Symantec AntiVirus。最新版と最新アップデートへの更新 (必須)。
- SYMEVENT ドライバの更新 (必須)。最新バージョンのドライバに更新してください。

NetBackup 9.0 のバイナリサイズ

表 B-2に、サポートされているさまざまなオペレーティングシステムの NetBackup 9.0.0.1 マスターサーバー、メディアサーバー、クライアントソフトウェアに対する概算のバイナリサ

イズを示します。これらのバイナリサイズは、初回インストール後に製品が占有するディスク容量を示します。表にリストされているサイズの場合、1 MB は 1024 KB に相当します。

メモ: NetBackup 8.3 では、Java GUI および JRE パッケージは、ほとんどのクライアントとメディアサーバーで省略可能です。パッケージサイズは、Java GUI と JRE を使用して計算されています。

メモ: 表 B-2 と表 B-3 には、サポート対象のオペレーティングシステムのみをリストしています。NetBackup が現在サポートしている最新のオペレーティングシステムのバージョンについては、Services and Operations Readiness Tools (SORT) Web サイトの『インストールとアップグレードのチェックリスト』か『NetBackup オペレーティングシステム互換性リスト』(<http://www.netbackup.com/compatibility>) を参照してください。

表 B-2 互換性のあるプラットフォームの NetBackup のバイナリサイズ

OS	CPU アーキテクチャ	32 ビットのクライアント	64 ビットのクライアント	64 ビットのサーバー	注意事項
AIX	POWER		1776 MB	サポート終了	
Canonical Ubuntu	x86-64		1424 MB		
CentOS	x86-64		1428 MB	6698 MB	メディアサーバーまたはクライアントとの互換性のみ。
Debian GNU/Linux	x86-64		1424 MB		
HP-UX	IA-64		2260 MB	サポート終了	
Oracle Linux	x86-64		1429 MB	6731 MB	
Red Hat Enterprise Linux Server	POWER		315 MB		
Red Hat Enterprise Linux Server	x86-64		1429 MB	6857 MB	
Red Hat Enterprise Linux Server	z/Architecture		969 MB	サポート終了	メディアサーバーまたはクライアントとの互換性のみ。

OS	CPU アーキテクチャ	32 ビットのクライアント	64 ビットのクライアント	64 ビットのサーバー	注意事項
Solaris	SPARC		1320 MB	5749 MB	
Solaris	x86-64		1346 MB	6108 MB	
SUSE Linux Enterprise Server	POWER		314 MB		
SUSE Linux Enterprise Server	x86-64		1195 MB	5982 MB	
SUSE Linux Enterprise Server	z/Architecture		981 MB	サポート終了	メディアサーバーまたはクライアントとの互換性のみ。
Windows	x86-64		484 MB	3008 MB	互換性のあるすべての Windows x64 プラットフォームを含む。

次の領域の要件は Windows に NetBackup をインストールする場合にも適用される場合があります。

- Windows システム上のデフォルトではない場所に NetBackup をインストールする場合、ソフトウェアの一部はアプリケーションフォルダのプライマリの場所に関係なく、システムドライブにインストールされます。システムドライブ上で必要な領域は通常、表 B-2 にリストされている合計バイナリサイズの 40～50% になります。
- NetBackup サーバーを Windows クラスタにインストールする場合、ソフトウェアの一部はクラスタの共有ディスクにインストールされます。クラスタの共有ディスク上で必要な領域は、表 B-2 にリストされているバイナリサイズに加えて必要なものです。クラスタの共有ディスク上で必要な領域は、

NetBackup OpsCenter

表 B-3 には、NetBackup OpsCenter 9.0.0.1 と互換性がある各種のオペレーティングシステム用の OpsCenter Agent、サーバー、および ViewBuilder のおよそのバイナリサイズが含まれます。

表 B-3 互換性のあるプラットフォームの NetBackup OpsCenter のバイナリサイズ

OS	CPU アーキテクチャ	エージェント	サーバー	ViewBuilder
Oracle Linux	x86-64		757 MB	

OS	CPU アーキテクチャ	エージェント	サーバー	ViewBuilder
Red Hat Enterprise Linux Server	x86-64		769 MB	
SUSE Linux Enterprise Server	x86-64		769 MB	
Windows Server	x86-64	263 MB	701 MB	263 MB

NetBackup プラグイン

NetBackup vCenter Web Client プラグインと NetBackup System Center Virtual Machine Manager アドイン用ディスク容量要件は、『NetBackup Plug-in for VMware vSphere Web Client ガイド』および『NetBackup Add-in for Microsoft SCVMM Console ガイド』にそれぞれ記載されています。

NetBackup 9.0.0.1 のバイナリサイズ

表 B-4 に、サポートされているさまざまなオペレーティングシステムの NetBackup 9.0.0.1 マスターサーバー、メディアサーバー、クライアントソフトウェアに対する概算のバイナリサイズを示します。これらのバイナリサイズは、初回インストール後に製品が占有するディスク容量を示します。表にリストされているサイズの場合、1 MB は 1024 KB に相当します。

メモ: NetBackup 8.3 では、Java GUI および JRE パッケージは、ほとんどのクライアントとメディアサーバーで省略可能です。パッケージサイズは、Java GUI と JRE を使用して計算されています。

メモ: 表 B-4 と 表 B-5 には、サポート対象のオペレーティングシステムのみをリストしています。NetBackup が現在サポートしている最新のオペレーティングシステムのバージョンについては、Services and Operations Readiness Tools (SORT) Web サイトの『インストールとアップグレードのチェックリスト』か『NetBackup オペレーティングシステム互換性リスト』(<http://www.netbackup.com/compatibility>) を参照してください。

表 B-4 互換性のあるプラットフォームの NetBackup のバイナリサイズ

OS	CPU アーキテクチャ	32 ビットのクライアント	64 ビットのクライアント	64 ビットのサーバー	注意事項
AIX	POWER		1835 MB	サポート終了	
Canonical Ubuntu	x86-64		1486 MB		

OS	CPU アーキテクチャ	32 ビットのクライアント	64 ビットのクライアント	64 ビットのサーバー	注意事項
CentOS	x86-64		1492 MB	7084 MB	
Debian GNU/Linux	x86-64		1486 MB		
HP-UX	IA-64		2313 MB	サポート終了	
Oracle Linux	x86-64		1493 MB	7073 MB	
Red Hat Enterprise Linux Server	POWER		315 MB		
Red Hat Enterprise Linux Server	x86-64		1493 MB	6963 MB	
Red Hat Enterprise Linux Server	z/Architecture		1028 MB	サポート終了	メディアサーバーまたはクライアントとの互換性のみ。
Solaris	SPARC		1381 MB	5937 MB	
Solaris	x86-64		1406 MB	6295 MB	
SUSE Linux Enterprise Server	POWER		314 MB		
SUSE Linux Enterprise Server	x86-64		1255 MB	6287 MB	
SUSE Linux Enterprise Server	z/Architecture		1039 MB	サポート終了	メディアサーバーまたはクライアントとの互換性のみ。
Windows	x86-64		482 MB	3122 MB	互換性のあるすべての Windows x64 プラットフォームを含む。

次の領域の要件は **Windows** に **NetBackup** をインストールする場合にも適用される場合があります。

- **Windows** システム上のデフォルトではない場所に **NetBackup** をインストールする場合、ソフトウェアの一部はアプリケーションフォルダのプライマリの場所に関係なく、システムドライブにインストールされます。システムドライブ上で必要な領域は通常、[表 B-4](#) にリストされている合計バイナリサイズの **40~50%** になります。

- NetBackup サーバーを Windows クラスタにインストールする場合、ソフトウェアの一部はクラスタの共有ディスクにインストールされます。クラスタの共有ディスク上で必要な領域は、表 B-4 にリストされているバイナリサイズに加えて必要なものです。クラスタの共有ディスク上で必要な領域は、

NetBackup OpsCenter

表 B-5 には、NetBackup OpsCenter 9.0.0.1 と互換性がある各種のオペレーティングシステム用の OpsCenter Agent、サーバー、および ViewBuilder のおよそのバイナリサイズが含まれます。

表 B-5 互換性のあるプラットフォームの NetBackup OpsCenter のバイナリサイズ

OS	CPU アーキテクチャ	エージェント	サーバー	ViewBuilder
Oracle Linux	x86-64		748 MB	
Red Hat Enterprise Linux Server	x86-64		750 MB	
SUSE Linux Enterprise Server	x86-64		763 MB	
Windows Server	x86-64	NetBackup 9.0.0.1 でサポート終了	688 MB	231 MB

NetBackup プラグイン

NetBackup vCenter Web Client プラグインと NetBackup System Center Virtual Machine Manager アドイン用ディスク容量要件は、『NetBackup Plug-in for VMware vSphere Web Client ガイド』および『NetBackup Add-in for Microsoft SCVMM Console ガイド』にそれぞれ記載されています。

NetBackup の互換性の要件

この付録では以下の項目について説明しています。

- [NetBackup のバージョン間の互換性について](#)
- [NetBackup の互換性リストと情報について](#)
- [NetBackup の End-of-Life のお知らせについて](#)

NetBackup のバージョン間の互換性について

マスターサーバー、メディアサーバー、およびクライアントの間で、バージョンが異なる NetBackup を実行できます。この旧バージョンのサポートによって、NetBackup サーバーを 1 つずつアップグレードして、全体的なシステムパフォーマンスに与える影響を最小限に抑えることができます。

Veritas ではサーバーとクライアントの特定の組み合わせのみがサポートされています。バージョンが混在する環境では、特定のコンピュータが最新のバージョンである必要があります。具体的には、バージョンの順序を OpsCenter サーバー、マスターサーバー、メディアサーバー、クライアントのようにします。たとえば、9.0 OpsCenter サーバー > 8.3.0.1 マスターサーバー > 8.3 メディアサーバー > 8.0 クライアントというシナリオがサポートされます。

NetBackup バージョンはすべて 4 桁の長さです。NetBackup 9.0 リリースは 9.0.0.0 リリースです。同様に、NetBackup 8.3 リリースは NetBackup 8.3.0.0 リリースです。サポート目的では、4 番目の数字は無視されます。8.3 マスターサーバーは 8.3.0.1 メディアサーバーをサポートします。同様に、8.3.0.1 マスターサーバーは 8.3 OpsCenter サーバーをサポートします。サポートされない例は、8.3 OpsCenter サーバーと 9.0 マスターサーバーです。

NetBackup カタログはマスターサーバー上に存在します。したがって、マスターサーバーはカタログバックアップのクライアントであると見なされます。NetBackup 構成にメディアサーバーが含まれている場合は、マスターサーバーと同じ NetBackup バージョンを使ってカタログバックアップを実行する必要があります。

NetBackup 8.1 でも、マスターサーバーを最初にアップグレードするという従来の必要条件に従うことが重要です。その後、8.1 クライアントをサポートするために必要なすべてのメディアサーバーをアップグレードします。Veritas クライアントをアップグレードする前に、すべてのメディアサーバーをアップグレードすることをお勧めします。すべてのマスターサーバーとすべてのメディアサーバーを NetBackup 8.1 にアップグレードしたら、クライアントを 8.1 にアップグレードします。NetBackup 8.1 より前のメディアサーバーでは、8.1 のクライアントのバックアップやリストアを実行できません。

NetBackup バージョン間の互換性について詳しくは、Veritas の SORT の Web サイトを参照してください。

<https://sort.veritas.com/>

Veritas は EOSL 情報をオンラインで確認することをお勧めします。

<https://sort.veritas.com/eosl>

NetBackup の互換性リストと情報について

『NetBackup リリースノート』のドキュメントには、NetBackup のバージョン間で実施された大量の互換性の変更に関する記述が含まれています。ただし、プラットフォーム、周辺機器、ドライブ、ライブラリの最新の互換性情報は、NetBackup の Veritas Operations Readiness Tools (SORT) Web サイトにあります。

p.39 の「[Veritas Services and Operations Readiness Tools について](#)」を参照してください。

NetBackup では、SORT によって、インストールとアップグレードのチェックリストのレポートと、既存の複数の環境にわたりホストの設定を収集、分析、報告する機能が提供されます。さらに、ご使用の環境にインストールした Hotfix や EEB がどのリリースに含まれているかを特定できます。このデータを使って、システムで特定のリリースのインストールまたはアップグレードを行う準備ができていますか評価します。

NetBackup 互換性リスト

SORT に加えて、Veritas はお客様がすぐに NetBackup の最新の互換性情報を参照できるようさまざまな互換性リストを提供しています。これらの互換性リストは次の場所にある Veritas のサポート Web サイトで見つけることができます。

<http://www.netbackup.com/compatibility>

メモ: 相互に互換性がある NetBackup のバージョンについて詳しくは、ソフトウェア互換性リスト (SCL)、SCL 内の [NetBackup のバージョン間の互換性 (Compatibility Between NetBackup Versions)] の順に選択します。

NetBackup の End-of-Life のお知らせについて

ベリタス社は多種多様なシステム、プラットフォーム、オペレーティングシステム、CPU アーキテクチャ、データベース、アプリケーション、ハードウェアに対し、可能なかぎり優れたデータ保護を提供することに取り組んでおります。ベリタス社は、今後も NetBackup システムのサポートを見直してまいります。これにより、製品の既存のバージョンの保守と、以下についての新しいサポートの導入とを適切なバランスで行っていくことができます。

- General Availability リリース
- 新しいソフトウェアおよびハードウェアの最新バージョン
- 新しい NetBackup の機能

ベリタス社が新しい機能とシステムのサポートを絶え間なく追加していく一方で、NetBackup のサポートの中には改善、置換、削除が必要なものもあります。これらのサポート処理は、古い、またはあまり使われない機能に影響することがあります。影響を受ける機能には、ソフトウェア、OS、データベース、アプリケーション、ハードウェア、サードパーティ製品との統合に関するサポートが含まれることがあります。また、場合によっては製造元によるサポートが終了しているか、サポート期間終了間際の製品が含まれる場合もあります。

ベリタス社は NetBackup のさまざまな機能のサポートに変更があった場合でもお客様に支障のないように詳細な通知を提供してサポートいたします。ベリタス社は、NetBackup の次のリリースでサポートされない古い製品機能、システム、サードパーティ製のソフトウェア製品をリスト化していく予定です。可能であれば、ベリタスによって、メジャーリリースの前に最低 6 カ月で可能なかぎり早くこれらのサポートリストを利用できるようにします。

SORT の利用

今後のプラットフォームおよび End-of-Life (EOL) 情報を含む機能サポートの詳細な通知は、Veritas Services and Operations Readiness Tools (SORT) for NetBackup のホームページにあるウィジェットから入手できます。SORT for NetBackup のホームページにある [NetBackup のプラットフォームと機能の今後の予定 (NetBackup Future Platform and Feature Plans)] ウィジェットは、次の場所から直接見つけることができます。

<https://sort.veritas.com/nbufutureplans>

NetBackup の End-of-Support-Life (EOSL) 情報は、次の場所から入手することもできます。

https://sort.veritas.com/eosl/show_matrix

p.39 の「[Veritas Services and Operations Readiness Tools について](#)」を参照してください。

プラットフォーム互換性の変更について

NetBackup 9.0.0.1 リリースには、さまざまなシステムのサポートにおける変更も実装されています。SORT の利用に加え、『[NetBackup リリースノート](#)』ドキュメントおよび [NetBackup の互換性リスト](#)を確認してから、NetBackup ソフトウェアをインストールまたはアップグレードする必要があります。

p.10 の「[NetBackup の新しい拡張と変更について](#)」を参照してください。

<http://www.netbackup.com/compatibility>

他のNetBackup マニュアル および関連マニュアル

この付録では以下の項目について説明しています。

- [NetBackup の関連マニュアルについて](#)

NetBackup の関連マニュアルについて

Veritas は、NetBackup ソフトウェアに関連するさまざまなガイドと技術マニュアルをリリースしています。特に指定のないかぎり、NetBackup のマニュアルは「[NetBackup Documentation Landing Page](#)」から PDF 形式でダウンロードするか、HTML 形式で参照できます。

NetBackup が新たにリリースされるたびにすべてのマニュアルが公開されるわけではありません。マニュアルには、NetBackup 9.0.0.1 用が公開されていない他バージョンのドキュメントの参照が記載されている場合があります。このような場合は、参照可能な最新バージョンのマニュアルをご覧ください。

メモ: Veritas は、PDF リーダーソフトウェアのインストールおよび使用に関する責任を負いません。

UNIX に関するすべての内容は、特に指定しないかぎり、Linux プラットフォームにも適用されます。

NetBackup 9.0.0.1 で公開されたマニュアル

- NetBackup リリースノート
- NetBackup Emergency Engineering Binary ガイド
- NetBackup インストールガイド
- NetBackup クイックスタートアップグレードガイド

- NetBackup アップグレードガイド
- NetBackup 管理者ガイド Vol. 1
- NetBackup CloudPoint インストールガイド
- NetBackup for OpenStack 管理者ガイド
- NetBackup OpsCenter 管理者ガイド
- NetBackup OpsCenter レポートガイド
- NetBackup OpsCenter パフォーマンスおよびチューニングガイド
- NetBackup 状態コードリファレンスガイド